

附錄

一、都市築造論

總論 夫レ一國ヲ治ムルモノハ國民ノ福利安寧ヲ圖ラサルヘカラサルカ如ク苟モ一市ノ市政ヲ司ルモノハ亦タ市民ヲシテ其身ヲ安シテ樂ンテ業務ニ從事シ市ノ發展ニ貢獻セシメ延テ國民トシテハ一國ノ隆昌ニ資スル所アラシメサルヘカラサルヤ言フ俟サルナリ

都市築造學タルヤ實ニ市ノ發展市民ノ福利安寧ニ大關係ヲ有スルノ學ニシテ其繫ハル所ノ範圍頗ル廣汎タルモノアリ

然レトモ吾人カ技術者トシテ此學ニ關係スル所ノモノハ主トシテ工學上ニ係バル事項ノミニシテ其論スル所モ亦タ市街街路ノ配置法交通ノ利便市街建築物ノ美術的築造衛生工事ノ領域ヲ出テス

是等諸工事ノ計畫ヲ立ツルニ當リテハ一方ニ市行政ニ關スル所頗ル重大ナルモノアリ曰ク土地ノ所有權曰ク市ノ經濟曰ク市民ノ負擔分配ニ關スル

法律規則ノ制定等枚擧ニ違アラス

故ニ吾人ハ單ニ技術者タルノ見地ヨリノミセスシテ市行政方面各種ノ問題ノ相關係スル所ノモノノ如何ヲ調査研究シ如何ニ都市築造學カ都市行政者ニ必須不可缺ノモノナルニ拘ラス現今市行政者カ往々斯學ニ對スル智識深カラサルカ爲メ如何ニ現狀カ無方針ナル施設ヲ以テ滿タサレツ、アルヤヲ指摘シ今後將ニ爲スヘキ途ノ奈邊ニ存スルヤヲ記述スル所アラントスルナリ

凡ソ市民ノ經濟的生活ヲナスニ當リテ最モ必要ナルモノ、一ハ交通機關トス 交通機關トハ交通路線及ヒ船車ヲ謂フ

抑モ路線按排ノ市民一般ノ希望ヲ滿タスヤ否ヤハ頗ル重大ナル問題ニシテ日々ノ交通路カ最モ交通ノ衝路ニ當ラサル所ニ位スルトキハ市民ハ日々徒ニ時ヲ消シ金ヲ費スノ愚ヲ敢テセサルヘカラサルカ故ニ主路線ノ設置按排ニ就テハ最モ慎重ノ攻究ヲ要スルモノタラサルヘカラス

路線トハ道路鐵道可航河海湖沼ノ謂ニシテ道路ニハ交通ヲ司ル自働車乘

合自働車人馬車自轉車及ヒ步行者ノ來往スルコト自ラ明カナリ 鐵道トハ市街蒸汽電氣馬車鐵道 地下高架登山鐵道 架空線等ヲ合マシメ得ヘク高速ヲ以テ市内近郊ヲ走行セシメ以テ遠近ノ輸送ヲナスモノナリ又可航河海湖沼ニハ船舶ニヨリテ衆客物貨ノ輸送ヲ司ルモノニシテ河海湖沼港灣ニ接スル都市ニ於テハ交通ノ主要路線ヲ是等ノ水面ニ求ムルコト多シ

是等路線ノ市ニ對スル位置ノ如何ハ市民ノ經濟的生活ニ甚シキ關係ヲ有スルモノタルハ吾人ノ喋々ヲ俟タサル所ナリト雖モ今一例ヲ舉ケンニ交通機關ノ利便ヲ缺クタメニ市ノ中部ニ市民カ通勤スルニ三十分ヲ費ストセンニ三十分ノ道程ヲ步行セハ少クトモ二軒ヲ往クヲ得ヘシ故ニ通勤ノタメニ三十分以上ヲ費シ得サル人ハ二軒以內ニ住居セサル可カラス然ルニ若シ此ノ二軒ヲ行クニ他ノ高速交通機關アリテ十分時ヲ費セハ足ルトセンニ他ノ二十分ヲ以テ家ニ在リテ或ハ他ニ業ニ從ヒテ之ヲ利用シ得ヘク之ヲ一年間ニ通算スレハ正ニ二百四十餘時間ヲ利スルヲ得ヘク一市民ニシテ然リ市民全般一之ヲ積算セハ蓋シ交通機關ノ利便ノタメニ數年間ノ業務ヲ利スルヲ

得ヘシ又空間即チ都市ノ面積ノ側ヨリ之ヲ考フルニ均シク三十分ヲ通勤ニ費スモノトセハ高速交通機關ヲ利用スル時ハ中部ヲ距ル六軒ノ範圍内ニ住居シ得ルカ故ニ半徑二軒ノ住居範圍ハ半徑六軒ノ面積ニ擴張セルト同等ノ結果トナルベク面積ハ正ニ九倍ニ達シタル範圍迄利用シ得ヘキコト、ナルヘシ豈其經濟的影響尠少ナリトセンヤ

以上説ク所ハ一例ニ過キスト雖モ其關係然ク重大ナリ主要路線ノ主ナルモノハ廣濶車道、市街ノ路面及ヒ地下ニ敷設シ或ハ高架鐵道ノ如ク橋梁上ニ敷設セル鐵道等ハ之ニ屬シ市ヲ貫通スル河川港灣ノ存スル場合ニハ渡船架橋ノ位置及ヒ水底隧道ノ築設箇處ノ適否モ亦タ重要ナル考究問題タリ又之ヲ市民ノ居住ノ方面ヨリ考フルニ居住地區ノ通路按排ハ主要交通路ト相連絡シテ利便ナルヘク市民ノ生活ニ必用ナル給水管瓦斯管電線下水道等ハ共ニ最モ便利ニ道路ヨリ各邸宅内ニ分離集合スル様ニ按排セラル、ヲ要スヘシ且ツ物貨運搬ノ便否ハ物貨運搬費用ノ増減ヲ來シ市民生活費ノ増減ヲナスノ因トナル其生計費ト關スル所尠少ナリトセス

次ニ市街街路ノ按排ト築造物トハ地形ニ應シテ美觀ヲ損セサル様ニ造ラレサルヘカラサルコトニシテ人性ノ美ヲ愛シ放縱ヲ嫌ヒ規矩整然タルモノヲ好ムハ自然ノ理ナルカ故ニ成ルヘク都市ヲシテ美化セシメントセハ地形ニ應シ街路ヲ按排スルニ當リ此美觀の見地ヨリノ攻究ヲモ怠ルヘカラサルナリ加之一國ノ文明ハ首都ニテ之ヲ代表シ各地方文化ノ度ハ該地方ノ都市ノ設備ニヨリテ之ヲ知ルヲ得ルカ故ニ都市ノ美觀ハ亦タ等閑視スヘカラサルノ點ナリトス

終リニ衛生的の見地ヨリ街路築造ノ關係ヲ見ンニ人生ニ必要缺クヘカラサルハ衣食住ニ加フルニ新鮮ナル空氣ト日光ニ浴スルノコトニシテ街路ノ方向ハ建築物ノ方向ニ影響ヲ與フル主ナル原因ナルヲ以テ豫メ街路築造ノ際日光ニ面シ且ツ新鮮ナル空氣ヲ得ラル、カ如ク其方向ヲ定メサルヘカラス而シテ建築物自身ニ就テハ如何ナル方向ニ如何ナル形式ヲ建設スヘキヤハ正ニ建築學者ノ攻究ニ俟ツモノニシテ其美術的ナルヘキハ勿論ナリト雖モ市民ノ習慣及ヒ衛生上適當ナル建築法ヲ採ラサルヘカラス唯土木工學上ヨ

リ之ヲ視ルトキハ給水排水ノ設備ノ十分ニ衛生的ニ且ツ廉價ニ施設サル、カ如ク街路ノ按排及ヒ建築物ノ築造ヲ行フヲ要スルナリ且ツ建築物ニ就テ尙ホ考慮ヲ要スルハ各種ノ建築物ハ各其目的ヲ異ニスルモノニシテ工場商館官衙住宅等各其要求ヲ異ニスヘシ故ニ街路按排ニ當リテハ是等異リタル要求ヲ調和満足セシムルカ如クセサルヘカラサルナリ

抑モ工場ハ其原料品ヲ受納シ製作品ヲ搬出スルニ利便ナラサルヘカラサル地位ヲ占ムルヲ要シ而シテ工場ニ於テハ煙筒ヨリ煤煙ヲ噴出シ機械運轉ノタメ高音響ヲ發出シ時ニ發火シ易キ原料ヲ有スル等ノ事アルヲ以テ他ノ官衙學校病院住宅ノ如キ靜謐ヲ主トスルモノト其旨ヲ異ニシ之ヲ他ニ分離シテ建築スルヲ要スヘク其性質上商業ノ中心地ト相接スルヲ便利トスルカ故ニ商工業建築物ハ之ヲ一定ノ個處ニ集合セシムル様街路ヲ按排スルヲ要シ住宅ハ最モ閑靜ナル處ヲ撰フ様ニナサ、ルヘカラス

夫レ都市ハ其築造後益々發達ヲ續ケ或ハ工業市トシテ立チ或ハ商業市トシテ立ツアリ或ハ行政府又ハ軍事上重要ノ都府トシテ立ツアリ或ハ遊覽靜

養地トシテ立ツアリ或ハ單ニ住居ノミヲ主ナル目的トスルモノアリ各市ハ各其性質ト特徴トニヨリテ其到達スヘキ運命ヲ異ニシ其目的ニ向ツテ進展スルモノナリ故ニ日々新ナル發展地ヲ要スヘキモノニシテ市區ノ擴張ハ止ムヲ得サルコトニ屬ス

然リ而シテ發展進步ニ向ツテ迫ルヘキ方針ハ如何發達スヘキ地區ノ狀態如何ヲ攻究スルヲ要スヘク此方針ヲ定ムルコトナクシテ市ノ發展ヲ自然ノ成リ行キニ委スルカ如キコトアランニハ途ニ難然トシテ拾集スヘカラサルノ結果ヲ齎スニ至ルヘキコト現今各國ノ都市ニ於テ其例ヲ見ルカ如キニ至ラン例ヘハ一市ハ現今自身ノ管轄下ノ面積内ニ於テ交通路線ノ按排ヲナシ毫モ之ト隣接スル市町村等ノ夫レニ對シ注意ヲ拂フコトナキ時ニハ將來市ノ面積カ人口ニ對シ狹小ニ過キタルニ至リテ隣接市町村ヲ併合スルノ際全ク沒交渉ニ設計セラレタル交通路線ヲ連絡セシムルニ甚シク不經濟ナルカ如キ工事ヲ要シ且ツ種々ノ不便利ニ遭遇スルコト多シ排水ニ關スルノ考慮モ亦タ然リ試ニ思ヘ一市ハ下水ヲ放流シ得ル大河川ニ沿フテ築造セラレ

地形カ河川ニ向ツテ次第ニ降下スルカ故ニ極メテ便利ニシテ容易ニ排水ヲナシ得ヘク簡單ナル排水路ニヨリテ排水ヲナシツ、アルモノトセンニ若シ此市ヲ距テ、隣接シ河川ヲ市ニ沿フテ有セサルカ如キモノ、存スル場合ヲ考ヘンニ此隣市ノ排水ニ就テハ頗ル設計者ノ考慮ヲ要スルモノアラン而モ難設計タルヲ免レス然ルニ當初隣市ノ水理上ノ關係ヲ調査シ兩市個々別々ニ排水工ヲ施サンヨリハ寧ロ兩市ノ爲メ共同ノ排水工ヲ廉價ニ築造シ得ハ如何ニ兩市々民ハ之カ爲メ利スルヤヲ推知シ得ヘク殊ニ將來隣市ヲ併合スヘキ場合ノ如キ正ニ其利大ナリト稱スヘキナリ

斯ノ如ク一工事ヲ爲スニ當リテ夫レカ他市及ヒ將來ニ及ホス影響ニ就テ考慮ヲ回ラス時ニハ各市夫レ夫レ異リタル運命ヲ有スヘケレハ一市ノ周圍ニ隣接セル他市町村ノ存スル時ニハ中心タル都市ト隣接市町村トハ相共ニ其將來ニ對スル方針ヲ考慮協定シテ各利害得失ヲ比較調和シテ設計ヲ立テサルヘカラス之レ所謂「目的組合」(獨 Zweckverband) ナル組合或ハ聯合委員會組織ノ生スル所以ナリ乃チ此組合ニ屬スル市町村ハ各或特殊工事行政等ニ

關シ相協議シテ現今ノ要求ニ應シ且ツ將來ニ遭遇スヘキ諸種ノ問題ニ對シ豫メ大方針ヲ建テ其方針ニ向ツテ發展ヲ期セントスルニ在リテ伯林市ニ隣接スル市町村ト伯林市トハ所謂大柏林目的組合ヲ組織シ此組合會ニ於テ大方針ヲ決定施行セシムルノ協議機關ヲ有ス之ヲ我カ東京市ニ比センカ現在ノ東京市ハ勿論其中心都市トナリ之ニ隣接セル市町村トシテハ其周圍ニ位スル品川町ヲ初トシ多數ノ町村ノ存スルアリ是等ノ町村ハ東京市ト交通排水工事給水工事其他各種ノ問題ニ對シテ大關係ヲ有スルモノナルカ故ニ目的組合ヲ組織シテ和衷協同將來ノ大東京カ有スヘキ運命ニ就テ大方針ヲ確定シテ之ニ向ツテ進展スヘキ協議機關トナスヲ得ハ徒ニ將來ニ對シテ考慮スル所ナキ施設ヲナシテ費用ヲ投棄スルカ如キコトナクシテ秩序整然トシテ都市ノ發達ヲ期シ得ヘシ

又轉シテ之ヲ考フルニ此ノ如キ組合ヲ組織スル代リニ一躍之ヲ東京市ニ併合セシメハ可ナラント論スルモノアラン然リ是レ最捷徑ナリト雖モ通例隣接市町村ニシテ之ヲ望ムモノ極メテ少キ場合多キカ故ニ先ツ組合ヲ組織

シ漸テ遂テ進ムモ一法タリト信ス
且ツ各町村其歴史の由緒ノ存スル所リモノモ少ナカラス之ヲ大市ニ併呑
サル、ヲ厭フモノアルハ正ニ其理ノ然ルモノアリ斯ノ如キ場合ニハ目的組
合ノ組織ヲ以テ最モ適當ナル解決法ナラストセス實ニ併合ノ容易ニ行ハレ
得ル所ニアリテハ之ヲ行ヒ都市將來發展ノ餘地ヲ十分ニ保留セシムルヲ以
テ最モ策ノ得タルモノト爲ス故ニ現今獨逸國ノ有力ナル都市ニシテ都市築
造學者ノ手ニ成リタル大設計ヲ採用セルモノハ未タ森林ヲ以テ蔽ハル、所
雜草繁茂セル荒野ヲモ市ニ併合シ以テ將來十分ナル擴張發展ヲナシ得ルノ
餘地ヲ保留スルコト概ネ然ラサルハナシ

然レトモ此ノ如ク都市カ將來發展ヲナサントスルニ當リ土地使用ニ就テ
茲ニ一難問ノ生スルアリ何ソヤ、所謂土地投機者ナルモノハ自己ノ占有ス
ル土地ニ對シ所有權ヲ主張シ地價ノ騰貴ヲ待ツヘク徒ニ空地ヲ利用セスシ
テ放置シ一般市民カ土地ヲ他ニ求ムルモ得ス必要止ムヲ得サルニ至ラシメ
高價ニ之ヲ市ニ賣ルカ又ハ任意ニ粗惡ナル建築物ヲ設ケ住宅料ヲ貪ルカ如

キコトヲナシ都市發展貧民救助ノタメ廣濶ナル市區ヲ擴張シ都市ノ政策ヲ
實行セントスルニ當リ土地買占者ノタメ甚シキ障礙ニ遭遇スルニ至ルヘシ
此事タル夙ニ學者ノ憂トセル所ニシテ都市カ一般市民ノタメ幸福ヲ増進ス
ルニ必要ナル土地ハ須ク市有タラシムヘシトノ論者ヲ生スルニ至レリ斯ノ
如クセハ土地投機ノ弊ヲ除キ得ルノミナラス都市カ交通衛生其他ノ目的ニ
土地ヲ使用スルニ頗ル利便タリ而シテ獨逸國政府モ亦都市ヲシテ成ルヘク
土地ヲ廣ク所有セシムルノ政策ヲ獎勵シ之ヲ助ケツ、アルハ是等ノ弊ヲ免
レ社會政策タル國民平等ニ土地ヲ使用スルノ理想ヲ實現セシメントスルニ
在リ

以上叙述スル所ヲ約言スレハ市爲政者ハ須ク市ノ運命ニ就テ十分ナル考
慮ヲナシ將來ニ對スル大方針ヲ確立スルヲ要スヘク此方針ニ向ツテ其途ヲ
誤ラスシテ進展スルタメニハ有力ナル協議機關ヲ必要トスヘシ此機關ニヨ
リテ多方面ノ研究ヲ重ネ此複雑至難ノ都市築造テフ問題ニ對シ最善ノ解決
法ヲ採ランコトヲ予輩ハ望ンテ止マサル所以ヲ記述セルナリ

予輩方今各都市爲政者ノ爲ス所ニ見テ聊カ首肯シ難キ點多キヲ以テ此言ヲ爲スモノナリ殊ニ一國ノ首都ニ在リテハ一國ノ體面上最モ完美ナル協議機關ヲ有セシムルノ必要アリ故ニ吾人ハ最モ有力ナル市區改正委員會ノ設立ヲ望ミ可及的ニ多方面ノ學者及ヒ經驗ヲ有スル識者ニヨリテ研究ヲ重ネ大方針ノ確定ヲナスヲ以テ現今ノ急務ナリトスルモノナリ其委員タルモノハ專ラ此方面ニ就テ考慮シ慎重公平ナル判斷ヲ下スモノタルヘク諸官省ノ官吏ノ兼職又ハ實業家ノ餘暇ニ之ヲ兼スルモノ等ニ委スルコトナカラシメシコトヲ望ムモノナリ

吾人ハ今市區改正ヲナスニ當リ考慮ヲ要スヘキ市ノ各部地區ノ設置ニ必要ナル條件ヲ次ニ記述シ終リニ予輩ノ此言ヲナスハ今日時機ヲ得タルモノナルヤ否ヤニ就テ記スル所アラントス

商工業區ヲ住宅區ト分別スルノ必要

都市ノ發達ヲ期スルタメニ商業ヲ營ムモ工業ニ從フモ皆自由ニ其發達隆昌ノ域ニ進マシメ其進路ニハ成ルヘク障礙物ヲ設ケサルヲ期スルヲ要ス然

リ而シテ住居ニ適スル地ハ自ラ商工業地ト趣ヲ異ニシ活潑ナル商工業ノ熱鬧ノ巷ヨリ遠カリ靜閑ナル土地ヲ欲スルナリ

現今商工業者ノタメニ運轉セラル、交通機關ノ往復ノ頻繁之ニヨリテ生スル塵埃工場ヨリ發スル高音響等ハ多少建築法規工場法令等ニヨリテ取締ラレタルモノアリト雖モ商工業ノ隆昌ヲ期スルニ於テ何ソ單ニ住民ノタメニ不愉快ナリトノ故ヲ以テ之ヲ束縛シテ發展ノ妨ヲナスニ忍ンヤ故ニ他ノ住民モ商工業者モ共ニ満足シテ日ヲ送り樂ンテ時ヲ消スカ如キ域ニ至ラシムル解決法ノ存スルアレハ一般市民ノ幸福ナリ

仍テ此解決ヲ爲スタメニ双方共ニ其希望條件ヲ満足シ得ルカ如キ地ヲ撰セ別居スルニ若カストノ結論ニ到達スヘシ是レ本題ヲ論セントスル所以ナリ然リ而シテ吾人ハ次ニ各市區ノ具備スヘキ條件ニ就テ之ヲ攻究セントス商業地區 商業地區ノ具備スヘキ條件ハ各都市多少趣ヲ異ニスルモノアリ例ヘハ港市 (Hafenstadt) ニ於テハ遠ク河海港灣ト相距リ鐵道ノミニヨリテ物貨ノ運搬ヲ司ル都市則チ (Binnenstadt) ト其趣ヲ異ニスルカ如キ又商業市ト

工業市大都市ト中小都市トハ各其旨ヲ異ニスルカ如キ是レナリ然レトモ吾人ハ茲ニ各市ニ共通ナル條件ニ就テ一般論ヲナスニ止メン

(一) 商業地區ニハ大商館上屋等ヲ有スヘク耐火耐水ニシテ盜難ヲ避ケ得ヘキ建築物トナシ全家皆商業上ニ關スル目的ニ使用セラル、モノタルベク其一階ハ之ヲ陳列店倉庫又ハ商店ニ利用スヘク二階以上ハ銀行商店本部等ニ用フルカ又ハ商業ヲ營ム人民ノ居住ニ供ス

(二) 斯ノ如キ商業地區ハ市ノ人口増スニ從テ其地區建築物ヲ増加セサルヘカラサルカ故ニ擴張地區ヲ十分ニ保留スヘシ

(三) 此地區ト他地區トノ劃然タル境界ヲ存セシメスシテ商業地區ノ中心ヨリ漸次各區ニ其枝線ヲ延ハスカ如キ設置ヲナスヘク主交通路ト連絡シ商業地區ヲ互ニ相接セシメ遂ニ之ヲ市ノ外廓ニ及ホス様ニスヘシ

(四) 商業地區ノ主部ハ舊市街ニシテ之ニ接シテ附近ニ鐵道停車場、港區等ヲ設ケラル

(五) 商業ヲ敏活ナラシムルタメ郵便電信局ハ此地區中ニ到處均一ニ設置セ

ラル、ヲ要ス

(六) 大商業ヲ營ム地區ハ古キ市區ニ其根蒂ヲ固メタルモノ多ク其漸次ノ擴張ニ伴ヒ小商業者ハ漸次其商業地區ノ外廓ニ移轉スルカ如クシテ商業地區ハ次第ニ擴大スル運命ヲ有スルカ故ニ之ニ適合セシムヘシ

(七) 商業地區ハ斯ノ如ク中心ヨリ枝線路ニヨリ市ノ外廓ニ至ルカ故ニ之カ擴張ヲ行フニハ市外ニ出テサルヘカラス仍テ都市爲政者ハ須ク商業地區ニ適當ナル枝線路ヲ既ニ豫メ撰定シ以テ將來ノ計畫ヲ定ムヘキナリ而シテ此擴張部ニ於ケル地區ハ主トシテ小商業ニ適セシムル様ニ定ムヘシ

(八) 交通路ノ配置ハ住宅地區ノ面積ニ應シテ之ヲ定ムヘシ
(九) 商業地區ニハ交通ノ便ナル様ニ鐵道ヲ敷設シ貨物通行ニ便ナル道路ヲ配置シ而モ之ニ接スル住宅地ニ迷惑ヲ感セシメサル様保護スヘシ

(十) 住宅地區ニ於ケル道路ハ商業地區ニ於ケル物貨交通ヲ主トスル道路ト區別スヘシ是レ商業地區ノ交通路ヨリスル塵埃音響ハ住宅地ニ迄及ホサシメス且ツ住宅地區ノ道路ハ重大ナル物貨ノ通行スルモノナキカ故ニ商業地

區ノ夫レニ比シ路面ノ築造ニ對シ趣ヲ異ニセサルヘカラサルニ由ル

(土)然レトモ商業地區道路ト住宅地區道路トハ成ルヘク便利ナル様相連絡セシメ商賈者及ヒ華客共ニ之ニヨリ便益ヲ得ル様ニナサシムヘシ

(三)交通路ハ物貨ノ集散ニ便速ナル様十分ナル考慮ヲ要ス

(主)種々ノ異リタル商賈者カ集合シテ存在スルハ買物ヲナスニ便利ナルカ故ニ時ト勞力トヲ省クヲ得ヘシ故ニ一區ニノミ同種類ノ商賈者ノ集ルカ如キコトハ避クル様ニスヘシ

(四)商業地區ノ全體ニ四通八達スル交通路網ヲ設ケ大小商工業區間ノ交通ニ便ニスルトトモニ貨物ノ通路ヲシテ住宅地區内ヲ貫クコトナカラシムヘシ

(五)新市街ヲ擴張スル時ハ主トシテ之ヲ住宅地區ニ充ツルト雖モ將來市カ次第ニ膨脹スルニ際シ此地區モ自然商業地區ニ變スルニ至ルカ故ニ漸次良好ナル商業地區ヲ得ルニ至ルベシ

(六)商業地區ニ於テハ地價借地料共ニ高價ナルカ故ニ建築物ハ自然ニ高層

ニ造リ成ルヘク平地積ヲ占有スルコト少カラシムルヲ期スヘシ故ニ路幅ヲ狭メ廣場ヲ小ニスルヲ欲スト雖モ建物ノ高サト路幅トハ鈞合ハサルヘカラス而シテ主交通路ニハ夏時陰影ヲ生セシメ冷氣ヲ感セシムル様ニスルヲ要ス之カ爲メ路樹ヲ植エ人車道ノ外散步路ヲ設ケ又自轉車路等ヲ造ル

(七)建築物ノ高サト距離トノ比ハ土地ニ從ツテ變スヘケレト獨逸國ノ例ニヨル時ハG:4又ハG:4ナリ

工業地區ニ就テ

(一)工業地區ハ住宅地區トハ成ルヘク隔離スヘシト雖モ工場ニ關係アル職工職員等ハ其近隣ニ住居ヲ求ムルヲ便トスルカ故ニ是等ノ人ニ對シ住宅地トシテ適當ナル地區ヲ工業地區ニ近接シテ設置スルヲ要ス

(二)工業地區ハ其地方ニ屢々起ル風ノタメ市民カ煤煙ヲ以テ苦シメラレサル様風下ニ於テ設クヘシ

(三)經濟上ノ見地ヨリスル時ハ工業地區ハ他都市ト交通ヲ司ルヘキ鐵道、可航河川航運河等ニ接シテ設ケラレ成ルヘク物貨運搬ノ費用ヲ小ニス可シ

(四) 工業地區ハ其工場地ノ發展ニ資スルタメ十分ノ餘地ヲ存スヘク將來鐵道及ヒ水運ノ便ヲ如何ニスルヤヲ豫メ考慮シテ其擴張區域ヲ存セシムヘシ

(五) 他ノ都市トノ交通ヲ考フルト同時ニ其都市内ノ商業地區トノ連絡ヲ便トスルタメニ適當ナル道路ノ按排ヲ要スヘシ而シテ道路ニハ重大ナル物貨ノ交通ニ適シ且ツ工場關係者ノ往復ニ愉快及ヒ安全ヲ與フル様ニ築造スルヲ要ス

住宅地區ニ就テ

我邦ニ於テ一家族ハ一家ニ居住スルヲ普通トスルカ故ニ各家族ハ一家ヲ築造シ又ハ借家シテ所謂健全ナル家族制度ノ發達セルアリト雖モ經濟的見地ヨリ各大都市ニ於テハ一獨立家屋ヲ有スルコトノ不可能トナルカ爲メ漸次數家族ニシテ一戸ヲナス所ノ長家住宅ニ居住スルノ止ムヲ得サルニ出ツルナリ抑モ現今ノ長家タル頗ル非衛生的ニシテ主トシテ傳染病ノ發生蔓延ハ長家ヨリスルコトハ吾人ノ熟知スル所タリ之ヲ以テ適當ナル住宅地區ニ衛生的設備ノ完全ナル長家ヲ築造シ一家族カ一戸ヲ有スルカ如キ理想的生

活ヲ爲シ得サルモノニハ此ノ如キ長家生活ヲナサシムル様市爲政者ハ當ニ注意スヘキナリ

土地ノ狹隘ナル都市ニ多數都人士ノ住居スルニハ自ラ空間ヲ利用セサルヘカラサルニ至ルヘシ之ヲ以テ現今行ハル、カ如キ單ニ平地積ノミ擴張スルカ如キ不利ヲ避ケテ且ツ多數ノ住民ヲ收容スヘキ住宅ヲ供給スルニハ高層家屋ノ長家式ニヨル外途ナカラシム

次ニ住宅地區トシテハ市ノ如何ナル部分ヲ可トシ如何ナル條件ヲ有セサルヘカラサルカヲ列記セン

- (一) 住宅地區ハ主交通路線ニ面セシムルコトナカラシムヘシ之レ其交通機關ニヨリテ生スル音響塵埃ノ害ヨリ免レシメンカタメナリ
- (二) 工業地區トハ相距ル遠カラシムヘシ
- (三) 主交通路線及ヒ其枝線トハ相當ニ近ク以テ容易ニ主交通路線ニヨリ市ノ他ノ部分ニ交通スルヲ得セシムヘシ
- (四) 住宅地區ノ道路ニハ重大ナル物貨ノ通行スルコトナキカ故ニ成ルヘク

音響ヲ發セサル安値ナル路面ヲ以テ築造スヘシ

(五) 日光及ヒ新鮮ナル空氣ノ流通ハ人生ニ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ住宅地區ニ於テハ空地ヲ存セシメ樹木ヲ植エ付ケ日光ヲ住宅内ニ入ル、ヲ得ルト共ニ新鮮ナル空氣ヲ植物ニヨリテ得ル様ニスヘシ

(六) 住家ノ方向ハ四季ヲ通シテ最モ愉快ニ不便少キ様ニ定ムヘケレハ土地ノ緯度 氣候ニヨリ大ニ斟酌スヘキモノナリ

市區改正ト建築條例及ヒ結論

現今既ニ都市ヲナスモノハ甚タ不規則無系統ノ人類ノ集合地タルノ觀ナキニ非ス間々舊藩侯ノ都市經營ニ意ヲ留メタル所或ハ遠ク京都奈良ノ如キ帝都ヲ開カレタル例モアレトモ其例多シトセス而シテ其發達ノ狀況ハ吾人之ヲ都市ニ隣接スル町村ニ於テ今日見ルヲ得ヘキカ如ク當初雜草繁茂セル荒原中ニ偶々甲人ハ一家ヲ建築セルモノアリトセンニ其家ニ通スルタメニ不規則ニ歩行スルニ足ル丈ケノ道路ヲ開クアリ次テ其附近ニ乙人ハ甲人トハ全然關スル所ナク任意ノ家ヲ任意ノ位置方向ニ建ツルアリ丙丁以下然リ

而シテ斯ノ如キ家屋ノ集合セルモノハ自ラ市ノ一部トナリテ存ス故ニ家ノ稍々多數ニ建築サレタル後ニ及ンテ始メテ道路ノ修築ヲナスナリ斯クテ道路及ヒ住家カ交通上衛生上美觀上最善ノモノニ非ルハ自ラ明ナリ

茲ニ於テカ數年ノ後斯ノ如キ地區ニ於テハ交通上不便ナルコトアルモ今ニ至リテ改築ヲナス能ハサルモノアルカ故ニ忍ハサルヘカラス排水路ヲ設ケントスルモ得サルコトアリ諸種ノ不便不快ヲ忍ハサルヘカラサルニ至ルコト比々然ラサルハナシ

仍テ是等ノ不便不利ヲ除カントシテ市區改正ヲ施行セサルヘカラサルニ至ル可シ而モ市區改正ノ事業タル既存セル都市ノ狀況ヲ變化スル事業ニシテ經濟上法律上頗ル難事タリ故ニ各國大都市ニ於テ此難問ニ對シ細ニ其辛酸ヲ嘗メ當局者ハ漸ヲ追フテ之ヲ行ヒ數十年ノ年月ヲ此大事業ニ費スモノアルハ抑モ亦タ故ナシトセス

斯ノ如ク既存市街ニ改正ヲ施スコトノ困難ナルヲ以テ新ニ築設セラル、市區ニ就テハ豫メ現在及ヒ將來ノ要求ヲ満足セシムル様ニ大計畫ヲ立テ此

大方針ニ基キテ市街ノ築造ヲ行ハサルヘカラス是レ都市築造學ノ骨子ニシテ此ノ標準ニ據リテ市街ニ築造セラ、建築物ニ就テハ安全衛生ヲ主トスルモノヲ築造スルカ如キ規則ヲ設定スルヲ要ス之建築條例ノ必要ノ因テ生スル所以ナリ

市區改正事業ニ於テハ建築條例中規定セラル、所ノモノト相俟テ行ハサルヘカラサルコトアリ例ヘハ防火耐水ノ壁床等ヲ以テ築造スル建物内ニ住居スルニハ自ラ現今ノ木造家屋内ニ住居スルト其慣習ヲ異ニスル生活ヲ行ハサルヘカラサルニ至ルヤモ測ラレス故ニ此法令ノ施行ニ當テハ豫メ多方面ノ學者ノ研究ニ俟ツ所ナカラサル可カラス

仍テ吾人カ切ニ望ム所ノモノハ市區改正事業ノ調査ヲナスタメ研究委員ナルモノヲ設置シテ最善ノ方法ヲ採リテ完全ニ近キ發達ヲ市ニナサシムルニ在リ之カ調査委員トシテハ土木建築技術者法律家衛生學者教育者商工業者等ノ學識經驗ニ富メルモノヲ以テ之ヲ組織スルニ在リ

此調査會ノ如キ悠々時ヲ消ス所ノ毫モ效果ナキモノニ終ルコトナカラシ

ムルヲ要スヘシ何トナレハ市區改正ノ必要ハ既ニ目睫ノ急ニ迫ラレツ、アルモノナレハナリ然リ何ヲ以テ之ヲ急ト謂フヤ見ヨ我帝都ハ其人口正ニ二百萬ヲ超エ面積ハ四平方里ニ亘リ世界中主要ナル位置ヲ占ムルニ反シ一國ノ首都ト稱シ世界的都市ト號シ果シテ遜色ナシトスルヤ否ヤ

之ヲ道路ニ見ヨ其按排宜シキヲ得タリトナスヤ其構造ハ如何又之ヲ交通機關ニ見ヨ市街電氣鐵道網ハ漸次其長サヲ増シツ、アリト雖モ高速交通機關ノ缺如セルアリ更ニ轉シテ商工業地區ト住宅區トニ就テ見ヨ其雜然無秩序ナル現狀何ソ之ヲ満足ナリト謂フヲ得ンヤ試ニ思ヘ市ノ商業地區タル銀座街頭ノ雜音高響ト其塵埃ヲ、深川工場地區ノ煤煙塵埃高雜音ヲ、斯ノ如キ地區ニ於テ執務スル人々ハ職務上止ムヲ得サルモ家居スル老幼婦女ハ果シテ愉快ニ且ツ満足ナル健康狀態ニテ生活シ得ルヤ否ヤ、宜ナリ現今間々有識者ハ家族ハ之ヲ郊外ニ住ハシメ執務ノミヲ此雜沓非衛生的地區ニ於テナシ夜間住宅ニ歸リ安靜ニ心身ヲ安ンスルモノアリ將來斯ノ如キ例ハ益々多カラシコト明ナリ

更ニ之ヲ建築物ニ見ヨ之ヲ改善スルノ餘地ナシト稱スルモノ之アラサルナリ其生活上ニ不便多キノミナラス市ノ各部ニ様式雜然タル建築物ノ羅列セル狀況豈ニ美術國タル名ヲ辱ムルコト之ナカラシヤ

終リニ吾人ノ本書ノ初メニ記述シタル衛生的設備ノ狀況ニ見ヨ其改善ヲ要スルコト豈急ナラストセンヤ

以上記述シタル所ニヨレハ改善ヲ要スルモノ多クシテ之カ實行ヲナサントセハ多額否ナ莫大ノ費用ヲ要スヘケレハ我貧弱ナル市民ハ現今ヲ以テ満足シ漸ヲ追フテ改善スルノ外途ナカラントノ論ヲナスモノアリ然リ吾人モ亦タ莫大ノ費用ヲ投シテ直チニ之カ改良ヲナスノ不可能事ナルヲ知ルト雖モ今ニシテ改良ニ對スル大方針ノ定マルナクンハ百年途ニ改良ノ實ヲ舉クルヲ得サルナキヤヲ憂フルモノナリ換言スレハ一定ノ進路ニ向フテ改善スルハ改善ノ歩ヲ進メタルモノト稱スルヲ得ヘキモ自然ノ成リ行キニ委シ所謂漫然無方針ナル其日暮シノ主義ハ識者ノ與セサル所ナリ是レ吾人カ市區改正事業ニ對スル調査委員會ヲ設クルノ要急ナリト謂フ所以ナリ殊ニ痛切

ニ必要ヲ感シツ、アル焦眉ノ急ハ新設市街地ノ築造ナリトス年々歳々郊外地ノ發展スル狀極メテ速カニシテ其新設市街地モ亦タ一定ノ大方針ニ則ラスシテ無秩序ニ發展スルノミナレハ早晚他ノ市區ト同一ニ改正ノ運命ニ遭遇スヘケレハ市民ヲシテ多額ノ金錢ヲ徒費セシムルコトナク宜シク速ニ市ノ改善ヲ期スルト共ニ市民ニ有益ニ其財ヲ費スコトヲ教ヘ市民ノ衛生狀態ヲ進メ國民ノ福利ヲ増進スル途ヲ進マシムルハ豈先覺爲政者ノ責ナラストセンヤ

二、道路面地下埋設物ニ就テ

現今文明都市ニ於テ交通、衛生、及ヒ居住ノ安全ニ要スル設備ノ完キ所ニアリテハ種々ノ築造工作物ヲ要シ其築造物中各戸ニ連續スル諸種ノ供給線ト廢水ヲ排除スル路線トヲ要ス其主要ナルモノヲ列記スレハ次ノ如シ

- (イ) 路面及ヒ各家ヨリ排水スヘキ下水管渠
- (ロ) 給水管 上水管又ハ工場用或ハ雜用水管
- (ハ) 瓦斯管 家事又ハ工場用ニ瓦斯ヲ供給スル管

- (ニ) 電線 (一) 電燈用線 (二) 高壓電線 (三) 電車用導線 (四) 電信及ヒ電話線
- 此種ヲ更ニ細別スレハ (イ) 公衆電信電話線 (ロ) 警察電信電話線 (ハ) 火防用線 (ニ) 私人電信電話線

(ホ) 壓搾空氣管 郵便用及ヒ機械工場用
 (ヘ) 給熱管 建物内ノ溫度ヲ高ムルタメ熱氣又ハ熱水ヲ循環セシムル管ニシテ此設備ヲ有スルハ現今米國紐育「ボストン」(Boston) 獨逸國「ドレスデン」(Dresden) 市ノ一部分ニ過キス

其他地下築造物トシテ地下鐵道アレト其ノ大サノ大ナルト是等供給管線渠ト稍々其趣ヲ異ニスルモノアルカ故ニ茲ニハ之ヲ考ヘス

以上ノ管線渠ハ全都市孰レモ之ヲ有スルモノニ非スシテ單ニ其數者ヲ有スルニ過キサレモノモ多ク之アルハ勿論ナリ

是等管線渠ハ路面地下ヨリ各戸ニ接續スルモノナルカ故ニ時々改築増設等ヲ要スル場合ニハ是等管線渠ノ本線ヨリ支線迄路面ヲ掘鑿セサルヘカラス而シテ人類ノ交通及ヒ經濟的生活ノ頻繁ナルニ從ツテ其増設改築ヲ要

スルコト大トナリ其都度路面ヲ掘リ土ヲ路面ニ盛リ上ケ交通ノ障礙ヲナス場合多シ實ニ其度數ノ増加ハ交通ノ繁多ナル市街地ニ於テハ能ク忍ビ得サル所トス殊ニ是等ノ埋設物カ車道ノ路面下ニ埋設セラル、場合ニハ其路面ノ構造カ堅固ナル丈ケ掘鑿及ヒ復舊ニ困難ヲ感スルノ度大ナルモノアリ

今既記埋設物ヲ車道面下ニ埋設スルノ不可ナル所以ヲ列舉セハ次ノ如シ

- (イ) 交通ニ障礙ヲナスコト大ナリ
- (ロ) 車道ノ掘鑿及ヒ復舊費ハ歩道面下ニ埋設物ノ存スル場合ヨリ遙ニ大ナリ

(ハ) 各戸ニ接續スル管線渠ノ長サ大ナルニ由リ費用嵩増スルノ不利アリ

(ニ) 地下鐵道ハ車道面下ニ之ヲ築造スルヲ普通トスルカ故ニ之ヲ有スル都市ニ於テハ殊ニ掘鑿復舊ニ不便ナリ

抑モ地下埋設物ノ處置ニ就テ困難ヲ嘗メタルノ初ハ實ニ大都市倫敦ナリ而シテ其之ニ對スル經驗ハ學術上頗ル興味アル所ナレハ次ニ之ヲ記述スヘシ同市ニ於テハ夙ニ地下埋設物ノ爲メ特ニ一地下室渠ヲ設クヘシトノ論者

アリシカ之カ實行ヲナスニ至ラサリシ然ルニ恰モヨシ一千九百五十年頃ニ於テ地下鐵道ノ築造セラル、アリ若カス之ヲシテ埋設物ヲ收容セシメント而シテ當時カヴェントガーデン(Covent Garden)ヨリ延長四百五十呎ノ地下鐵道隧道ニ之ヲ收容セシメタリ次テ増設セラレタル諸地下鐵道ニ此式ヲ應用スルコト、セリ其方法タル地下鐵道路面ニ埋設物ヲ置キ各戸ニ之ヲ連續セシムルニハ横坑道ヲ穿テ各二戸共通ノ一横坑ヲ有セシメ此横坑ヨリ各戸地下室ノ壁ヲ貫キテ各戸ニ通セシム又横坑ノ長サ大ナル時ニハ其中途ニ換氣坑ヲ附セシムルコト、セリ然ルニ爾後石炭瓦斯管ヨリ漏洩スル瓦斯カ度々爆發スルコトアリ法官ハ爲メニ屢々其訴訟問題ノ解決ニ困難ヲ感セシメラレタリ

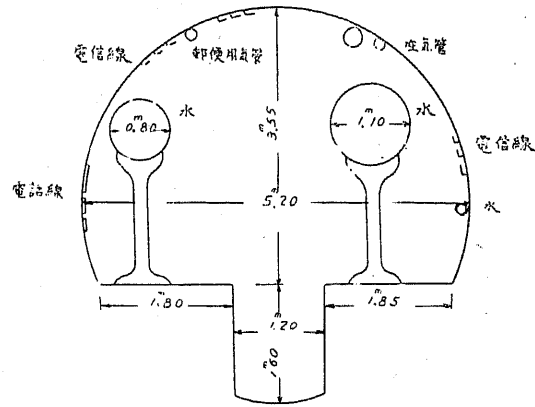
以上ハ偶々倫敦市ニ於テ適當ナリトセラレタル地下埋設物處置ノ一解決法ナリシカ茲ニ考慮スヘキハ同市ニ於テモ全市街車道面下ニ地下鐵道ノ建設ヲ見ルコトハ望ムヘカラサルコトニ屬スヘク況ンヤ他ノ小都市ニ於テハ之ヲ有セサルモノ比々然ラサルハナシ試ニ倫敦市ノ千八百九十三年ノ統計

ニ見ルニ地下鐵道ノ延長拾籽ナルニ給水管ハ延長四千五百籽、瓦斯管ハ七千籽、下水渠ハ四千籽ノ延長ヲ有ス豈ニ地下鐵道ノミ是等ノ管線渠ヲ收容シ得ヘケンヤ、是ニ於テカ河岸ニ築造シタル岸壁内ニ暗渠ヲ設ケ之ヲシテ管線ヲ收容セシムルノ方法ヲ併用セル外道路幅員ヲ増加スル際ニハ舊地下室ヲ是等埋設物收容ノ隧道ニ利用スル等ノ方法ヲ講シタリキ而モ其處置法ハ一定ノ法律ノ下ニ置カレスンテ單ニ個々別々ノ場合ニ適應シテ隨時之カ處分ヲナセルニ過キサリシ

佛京巴里市ニ於テハ倫敦市ノ例ニ則リ然モ別箇ノ處分法ヲ採レリ即チ下水渠ヲ大ニシ諸管線ヲ其内ニ收容スルコト、シ以テ各車道面下ニ管線ノ普遍シ得ルカ如クセリ之所謂巴里式大下水渠ニシテ其最小渠ニ於テモ高サ二米突ヲ有シ各戸ニ通スル横坑ハ其高サ一、八米突トナセリ而シテ給水管電信電話線等ハ側壁又ハ頂壁ニ之ヲ懸垂又ハ支持セシメ下水渠トシテ其最底部ヲ利用セリ故ニ本渠ノ大ナルモノニ在リテハ高サ六米突幅三、七米突ヲ算シ其兩側ニハ步行シ得ヘキ小段ヲ附スルコト圖示セルカ如シ(第六十七圖參照)

第六十七圖

巴里市巴斯托路大街下水渠



規則制定タル極メテ近ク行ハレタルモノ多ク大多數ノ都市ハ目下規則制定中ニ屬ス

以上ノ實例ヲ見ルニ一般ニ行ハレツ、アル傾向トシテハ電線、瓦斯水道管

白耳義國首都「ラセル」Brussels 市

ニ於テハ歩道面下深サ二米突ノ處ニ特殊ナル暗渠ヲ設ケ其内ニ水道管ト電線トヲ收容セシム此暗渠ハ車道ノ中心線ニ沿フテ築造セラレタル下水渠ニ通ス又此暗渠ノ外壁ト各戸ノ外壁トノ間ニハ一、一米突以上ノ幅員ヲ有セシメ此處ニ瓦斯管ヲ埋設ス

獨逸國ニ於ケル都市埋設物設置ノ規定アル所ノ都市ニ於ケル配置法ハ第六十八圖ニ示スカ如シ然レトモ此

ハ之ヲ歩道面下ニ埋設シ下水渠ハ車道面下ニ築造スルヲ普通トスルカ如シ而シテ地下埋設物ヲ整理セントセハ從ツテ最小路幅ヲモ規定セサルヘカラサルヘク之ニ伴フテ建築物ノ高サニ制限ヲ設ケサルヘカラサル等ノ諸種ノ關係ノ因テ來ル所ノモノアリ

扱テ地下埋設物ヲ整頓スルニハ一隧道内ニ是等ヲ收容シ此隧道ヲ歩道面下ニ築造スルヲ以テ理想的解決法ナリトシ之ヲ實行スルニ當リ如何ナル困難ニ遭遇スヘキカヲ考ヘ尙ホ之カ處置ニ就テ考フル所アラントス

(一) 隧道ノ大サヲ如何ニシテ規定スヘキヤ

現今ノ需用ニ應スル範圍内ニ於テ其大サヲ定メ將來此内ニ收容スヘキ管線ノ増加ヲ見込ムヘキモ將來ノ事豫知スヘカラサルモノアリ

此困難ナル問題ノ解決法ハ豫メ市街築造計畫ノ確立セル所ニアリテハ建築規則等ノ定マレルアリテ甚シク重大ナル變更ヲナスノ要ナケン

(二) 新タニ開カレタル市街地ニ於テハ本隧道ト各戸ヲ接續スル横坑ヲ如何ナル位置ニ設クヘキヤ

之レ明カニ不可解ノ問題ナルモ本渠ハ街路築造ノ際設ケ將來必要ニ應シテ横坑ヲ造ルモ尙ホ遲シトセサラン

(三) 隧道内ニ於テハ管線ノ修理増設改築ヲ爲スニ職工労働者カ十分ニ働キ得ル丈ケノ大サヲ有セシメ且ツ長大ナル鐵管又ハ電纜筒ヲ搬入スルニ足ル丈ケノ大サヲ有セシムヘク到處ニ之ヲ取扱ヒ得サルヘカラサルカ故ニ高サ小ナル隧道タルヘカラス

(四) 各管線共同ノ室内ニ在リテ之カ監視ニハ便ナルヘケレト或一種ノ管線ノ障害ノタメニ他ニ害ヲ及ホスコト多シ例ヘハ水道鐵管ノ破裂電線ノ短循環ヲ形成スル時等ノ如キ之ナリ

(五) 地下室内ニ設置セラルト雖モ其周圍ノ空氣溫度ノ昇降ノ爲メ鐵管ノ伸縮ハ地壤ヲ以テ之ヲ包圍セル場合ニ比シテ大ナル故ニ水道瓦斯鐵管ノ接合ノ不完全ナル箇處ヲ生シ漏水漏氣ヲ來スコト多シ殊ニ危險ナルハ瓦斯ノ漏洩スルニ在リ

(六) 隧道内ノ濕氣ノタメ鐵管ノ銹害大ナリ

前掲(五)ニ記述セルカ如ク瓦斯ノ漏洩ハ危險ナル理由ニ就テ少シク記サンニ石炭瓦斯ハ濕氣中ニ合マル、他ノ種々ノ有機瓦斯ト混合シテ爆發性ヲ有スルニ至ルモノニシテ或機會ニ點火サル、コトアレハ頗ル危險ナルモノナリ故ニ瓦斯管ハ之ヲ他ノ管線ト別箇ニ埋設スルコト「ブラッセル」市ニ於ケルカ如クスルヲ可トスヘシ唯之カ爲メ工費カ幾分カ増嵩スルハ止ムヲ得サルコト、ス

殊ニ下水渠内ニ瓦斯管ヲ裝設セサルノ理由ハ次ノ如シトス

(一) 石炭瓦斯カ漏洩シ下水瓦斯ト混合シテ爆發性ヲ有スルニ至ル故ニ巴里市ニテモ瓦斯管ハ下水渠ニ之ヲ收容セサルコト、ナセルナリ

(二) 溫度ノ變化ノタメ挿接ノ箇處弛ミ瓦斯ノ漏洩量ヲ増加ス或報告ニ據レハ之カタメ「五バーセント」ノ損失ヲ招致セリト謂フ

(三) 爆發ヲ防ク爲メ人工的換氣法ヲ十分ニ行ハ、之ヲ避クヘシトノ論ヲ爲セルモノアレト之レ容易ノ業ニ非サルナリ

(四) 横坑内ニ瓦斯ノ漏洩セルモノニシテ換氣不十分ナル時ハ労働者ノ窒息

ヲ招クカ如キコト往々ニシテ之アリ

以上論述セル所ニ據リテ見レハ必スシモ一室内ニ埋設物ヲ收容スルノ可ナル所以ヲ見ス故ニ近來獨逸各都市ニ於テハ概ネ次ノ標準ニ據ルモノ、如シ

(一) 工費ヲ増大ナラシメサル爲メ地中ニ暗渠ヲ設ケス直チニ地中ニ埋設シ其周圍ハ十分ニ搗キ固ム

(二) 埋設物ノ混雜セサル様歩道面下ニ定規ノ位置ニ配置ス

(三) 歩道ハ是等埋設物ヲ收容スルニ足ル丈ケノ幅員ヲ有シ路面ハ容易ニ掘鑿シ且ツ復舊シ得ルカ如キモノタラシム

(四) 瓦斯管ハ成ルヘク家屋ト遠ケ以テ漏氣ノ屋内ニ侵入スルヲ防クヘク又街樹ノ存スル所ニ在リテハ漏洩瓦斯ニヨリ被害ヲ免ル、タメ相當ニ距タラシムヘキコト

(五) 各管線ノ相互ノ位置ヲ定ムル爲メニハ瓦斯管ノ位置ヲ先ツ定メ次テ他ニ及ホスヘシ

(六) 路幅十五米突以上ノ街路ニ在リテハ兩側歩道下ニ管線ヲ埋設スヘク十五米突以下ノ幅員ヲ有スル街路ニ在リテハ路幅中心線ニ沿フテ之ヲ埋設スルヲ標準トス之レ蓋シ枝線ノ延長増加ハ單線ノ代リニ複線ト爲スヲ經濟的ナリトスルニ由ルモノナリ此點ニ就テ管テ獨逸國「ミンヘン」(München) 市ニ於テ調査セル所ニ據レハ瓦斯管ニ在リテハ路幅約十八米突以上ニ至レハ經濟上複線ヲ可トスヘク水道管ニ在リテハ二十八米突ヲ以テ複線ヲ可トスヘシトノ結果ヲ得タリト謂フ

○ 下水道法

○ 下水道汚施行規則

○ 下水道築造認可申請方

○ 道路法第三十八條第一項規定ニ依ル占用ノ

許可又ハ承認ニ関スル件

○ 遞信省所管電信電話地下工作物施行要項

○ 汚物掃除法

○ 汚物掃除法施行規則

三

下水道法

明治三十三年三月
法律第三十二號

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲メ汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其他ノ排水線路及其附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セントスルトキハ其設計工費ノ收支豫算及起工並竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此限ニ非ス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用者若クハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲メ必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徴收スルコトヲ得

第四條 前項ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スルタメ必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムルタメ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ

施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若クハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ、若クハ之ヲ管理スル必要アル時ハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カタメ他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スルタメ其事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムル時ハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非レハ之ヲ爲スコトヲ得ス但必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲナシタルトキハ市ハ市稅ノ例ニ依リ其費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 內務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得
附 則

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

下水道法施行規則

明治三十四年七月十日
內務省令第二十一號

改正
大正七年
內務省令第十三號

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但本則第二條ノ場合ハ此限ニ在ラス

一、建物アル土地ニ在リテハ之カ築造及修繕ハ其建物ノ所有者

二、建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其土地ノ所有者

三、建物ノ有無ニ拘ハラズ之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費一萬圓未滿ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徴收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及ヒ第七條ノ規定ヲ準用ス

下水道及ヒ下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス
及ヒ八王子市

第七條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

下水道築造認可申請方

明治三十四年七月十日
內務省令第十一號

廳府縣下水道法第二條ニ依リ下水道築造ノ認可ヲ申請セントスルトキハ左ノ規定ニ從ヒ圖面及書類ヲ調製添付セシムヘシ

第一條 申請書ニ添付スヘキ圖面及書類ハ左ノ如シ

一、實測平面圖縮尺二千五分之一以上

二、實測縱斷面圖縮尺長サ二千五百分之一以上高サ百分之一以上

三、排水管及排水渠ノ斷面圖縮尺五十分之一以上

附 錄 下水道法施行規則 下水道築造認可申請方

四、人孔 燈孔 通風器 防臭瓣裝置 排水唧筒 沈澱池 濾過池ノ構造ニ關スル圖面其他必要ナル細分圖縮尺五十分之一以上

五、一位代價表

六、工費計算書

七、計畫說明書

八、下水道管理ニ關スル規程

九、歲入出豫算書

十、起工及竣工年月日

第二條 實測平面圖ニハ市町村界市町村名街路河川視形線其他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノ排水區劃沈澱池濾過池排出地排水管排水渠人孔燈孔等ヲ詳記スヘシ但排水管排水渠ノ管徑幅員ノ異ルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ區別スヘシ

第三條 實測縱斷面圖ニハ計畫線ノ高低排水管排水渠ノ勾配 水平距離河川ノ水位海面ノ干滿潮面等總テ必要ナルモノヲ詳記スヘシ

第四條 人孔燈孔等ノ構造圖ハ斷面其他構造ヲ顯ハスニ必要ナルモノヲ調製スヘシ

第五條 一位代價表ニハ切取埋立石垣コンクリートモルタル等各種共其一位トナスヘキモノヲ選ミ一位ニ付テ必要ナル材料人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ摘要欄ヲ設ケ單價ノ基々理由ヲ詳記スヘシ

第六條 工費計算書ニハ各種工事共各部分毎ニ計算ヲ記スヘシ

第七條 計畫說明書ニハ下水道築造ノ必要ナル理由地形接壤地ヲモ含ム地質排水スヘキ地域及各排水區劃ノ面積其地域及各區劃ノ現在人口及ヒ將來増殖スヘキ豫定人口雨水及ヒ汚水ノ量排除方法幹線選定ノ理由排水管及ヒ排水渠ノ斷面計算洗滌及通風ノ裝置汚水最後ノ處分法河川ニ放流スルトキハ下流飲用者ノ有無其他荷クモ設計ニ關スルモノハ其算式及事項ヲ詳記スヘシ

第八條 下水管理ニ關スル規程ニハ下水道ノ修繕掃除及下水道又ハ市ノ義務ニ屬スル下水道法第三條ノ施設ト土地ノ所有者使用者義務ニ屬スル施設トノ連結等ニ關スル必要ノ事項ヲ規定スヘシ

第九條 圖面ハ總テ蠟布ヲ用ヒ計畫線路構造等ヲ識別スルニ容易ナラシムル爲メ彩色ヲ施シ設計者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

汚物掃除法

明治三十三年三月七日
法律第三十一號

第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第二條 市ハ本法其他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其區域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ義務者カ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲナシタル爲メ生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲メ必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲メ其事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非レハ之ヲ爲スコトヲ得ス但必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第八條 前條ノ處分ヲナシタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

第九條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

汚物掃除法施行規則

明治三十三年三月八日
內務省令第五號(改正) 四十二年
第一三號

第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥污水及尿トス

第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

建物ノ所有者ハ其建物アル土地ノ清潔保持ノ爲メ必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ
建物ナキ土地ノ所有者ハ其土地ノ清潔保持ノ爲メ必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其容器ニ蒐集スヘシ
汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ

土地ニ定着シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得

地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄スヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲナサシムヘシ

第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ燒却

スヘシ

戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ

第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ

公共溝渠ノ汚水ハ之ヲ適當ノ場所ニ排泄スヘシ

第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ

第九條 市ハ其義務ニ屬スル場所ノ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ

一 汚物掃除法第二條第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス

二 公共溝渠公共便所塵芥燒却場其他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス

三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ巡視ス

四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及ヒ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス

第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前

ニ於テシ制服ヲ着スルモノ、外證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規程アル場合ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附録書式ニヨリ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交附ハ市税ノ令狀ニ準スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クルモノハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ尿尿ヲ注流シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條 公共道路ノ掃除ハ當分ノ内從前ノ成規ニ依ル但公共道路ヲ掃除シタル塵芥ニ關シテハ第三條及第九條ヲ適用ス

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及ヒ第五條ニ拘ラス別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

汚物掃除法施行前廳府縣令ノ規定ニ依リ一定ノ構造設備ヲ爲シタル塵芥溜ニシテ汚物掃除法施行ノ際現ニ存スルモノハ地方長官ニ於テ當分ノ内其使用ヲ許可スルコトヲ得

第二十二條 屎尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認めタル場合ニハ市ヲシテ處分セシムヘシ

第二十二條ノ二 前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ處分方法ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 地方長官ハ汚物掃除法施行後一箇年以内ニ限り公共便所ニ關スル市ノ義務ヲ延期スルコトヲ得

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノ、外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 東京市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

附 錄

戒告書

一、履行スヘキ事項

(記載例)

(臺所流シヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壊セル部分ヲ修繕スルコト)

(井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ改築スルコト)

(東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込トナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲スコト)

一、履行スヘキ期限送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又ハ何時間)以内
右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

年 月 日

氏 名 殿

年 日 時

職 氏 名 印

掃除監視吏員組織權限

明治三十三年三月
內務省令第六號

第一條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ハ左ノ如シ

一、掃除監督長

二、掃除監督

三、掃除巡視

第二條 掃除監督長ハ市參事會又ハ市長ノ命ヲ承ケ汚物掃除ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ吏員ヲ指揮監督ス

第三條 掃除監督ハ掃除監督長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ掃除巡視ヲ指揮監督ス

第四條 掃除巡視ハ掃除監督長又ハ掃除監督ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第五條 掃除監督長ハ一人トス

掃除監督及掃除巡視ノ定員ハ土地ノ狀況ヲ斟酌シ地方長官之ヲ定ム

第六條 掃除監督長掃除監督及掃除巡視ノ俸給額ハ地方長官之ヲ定ム

第七條 掃除巡視採用規則ハ巡查採用規則ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第八條 掃除巡視服務規律ハ巡查ノ服務ニ關スル規律ニ準シ地方長官之ヲ定ム

第九條 東京市ニ在リテハ地方長官ニ屬スル職務ハ警視總監及ヒ東京府知事之ヲ行フ

掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

(明治三十三年三月內務省訓令第三四二號)

掃除監視吏員ノ職務章程中ニハ左ノ條項ヲ參酌シ規定ヲ設ケシメラルヘシ

掃除監督長ノ職務

第一 掃除監督長ハ掃除監督掃除巡視及掃除ノ勤務作業服裝等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ

第二 掃除監督長ハ市内ヲ巡回シ左ノ事項ヲ視察スヘシ

一、掃除監督以下ノ配置ノ適否

二、掃除人ノ數及其配置ノ適否

三、塵芥燒却場汚物假置場ノ狀況

四、公共溝渠公共便所ノ狀況

五、其他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況

六、私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ關スル法令ノ行否

第三 掃除監督長ハ公共溝渠公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ

第四 掃除監督長ハ汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シタル私人ニ戒告シ及

附錄 掃除監視吏員權限 掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スヘシ

第五 掃除監督長私人ニ戒告スルトキハ左ノ事項ヲ除ク外市長ノ指定ヲ受クヘシ

一 溝渠便所井戸流其他ノ場所ノ掃除及汚物ノ處分ニシテ人夫何人以内ニテ履行シ得ヘキ見込ナルモノ

二 溝渠便所井戸流ノ築造修繕等ニシテ何圓以内ノ費用ヲ以テ履行シ得ヘキ見込ナルモノ

三 塵芥容器ノ備付取替等

第六 掃除監督長戒告書ヲ送達セシムルトキハ領收書ヲ徴セシムヘシ

第七 掃除監督長ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官署ノ協議アリタルトキハ掃除監督又ハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ラ臨檢スヘシ

第八 掃除監督長ハ掃除巡視ノ受持區劃ヲ定メ二以上ノ受持區ヲ以テ受持組合ヲ設クヘシ

第九 掃除監督長ハ掃除巡視ニ受持ノ區又ハ勤務ノ場所ヲ命スヘシ

第十 掃除監督長ハ臨時必要アル時ハ掃除監督ヲシテ他ノ掃除監督ノ擔任ニ屬スル事務ヲ補助代理セシメ又ハ掃除巡視ヲシテ掃除監督ノ事務ヲ補助代理セシムルトトテ得

第十一 掃除監督及掃除巡視ノ進退賞罰ヲ市參事會ニ具申スヘシ

第十二 掃除監督長ハ掃除人ヲ雇入レ及之ヲ解雇シ又ハ人夫請負人ニ命シテ掃除人ヲ解雇セシムルコトヲ得

第十三 掃除監督長ハ人夫請負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ市參事會ニ具申スヘシ

第十四 掃除監督長ハ毎月一回左ノ事項ヲ調査シ翌月十五日迄ニ市長ニ報告スヘシ
一、使用シタル掃除人ノ延人員掃除區劃別塵芥焼却場等ニ使用スル者ハ別ニ之ヲ示スヘシ

二、搬出シタル塵芥及污泥ノ各見積重量又ハ容量掃除區劃別

三、焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥焼却場別)

四、公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫ニ著手シ又ハ落成シタル箇所其狀況

五、掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數溝渠便所井戸流其他地域内ヲ特ニ視察シタルモノ

六、掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他前各號ニ準シテ項目ヲ分ツテ要ス以下同シ)

附錄 掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

- 七、私人ニ戒告シタル數
- (イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他
- 八、戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數
- (イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他
- 九、代施行シタル件數
- (イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他
- 十、掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他
- 十一、掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數
- (イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他
- 十二、掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數

- (イ)：：第何條ニ依リ (ロ)：：：第何條ニ依リ (ハ)：：：第何條ニ依リ (ニ)：：：第何條ニ依リ (ホ)其他
- 依リ (ホ)其他
- 第十五 掃除監督長ハ毎年事務年報ヲ調製シ翌年六月迄ニ市長ニ提出スヘシ
- 第十六 掃除事務年報ニ記載スヘキ事項ハ左ノ如シ
- 一、掃除區劃ノ數各區ノ面積戸數人口(戸數人口ハ最近調査ニ據ル)
- 二、各掃除區劃内ノ受持區劃ノ數
- 三、年末現在掃除監視吏員ノ員數俸給別
- 四、毎月使用シタル掃除人ノ延人員(掃除區劃別塵芥燒却場等ニ使用スルモノハ別ニ之ヲ示スベシ)
- 五、毎月搬出シタル塵芥汚泥ノ各見積重量又ハ容量(塵芥區劃別)
- 六、燒却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量(塵芥燒却場別)
- 七、公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ數(公共便所汚物假置場ハ掃除區劃別年末現在)
- 八、公共溝渠公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ニ著手シ又ハ落成シタル箇所其狀況
- 九、汚物掃除法施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ汚物ヲ蒐集スル戸數毎日何回蒐集何戸毎日一回同上毎二日一回同上：：)

塵芥容器塵芥溜ノ數掃除區劃別年末現在

十 汚物掃除施行規則第二十一條ニ基キ土地ノ占有者ヲシテ汚物ヲ處分セシムル個所ノ數掃除區劃別年末現在

十一 毎月掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數溝渠便所井戸流其他地域内特ニ視察シタルモノ

十二 掃除監視吏員毎月巡回視察中私人ニ注意ヲ與ヘタル注意ノ件數

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十三 毎月私人ニ戒告シタル件數

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十四 戒告ヲ受ケ私人ノ履行シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十五 代執行ヲナシタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十六 掃除監視吏員申告ニヨリ臨檢シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十七 掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル件數(毎月)

(イ)塵芥容器又ハ其使用方ニ付 (ロ)溝渠ニ付 (ハ)便所ニ付 (ニ)地域内ノ掃除ニ付 (ホ)其他

十八 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタル者ノ數(毎月)

(イ)：：：第何條ニ依リ (ロ)：：：第何條ニ依リ (ハ)：：：第何條ニ依リ (ニ)：：：第何條ニ依リ

十九 市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除又ハ掃除ニ關スル市ノ施設ニ付毎月掃除監督ヨリ掃除監督長ニ具申シタル件數

(イ)公共溝渠ノ築造修繕浚渫ニ付 (ロ)公共便所ノ築造修繕ニ付 (ハ)塵芥焼却場ノ築造修繕ニ付 (ニ)汚物假置場ノ築造修繕ニ付 (ホ)市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ニ付 (ヘ)其他

二十 掃除ニ關スル費用豫算(前年度決算ノ比較其他

掃除監督ノ職務

附錄 掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

- 第十七 掃除監督ハ市内ノ掃除區ヲ擔任シ又ハ塵芥焼却場汚物假置場等ヲ擔任スヘシ
- 第十八 掃除監督ハ常ニ擔任ノ區内ヲ巡回シ又ハ擔任ノ場處ニ於テ部下ノ掃除巡視及掃除人ノ勤務作業服装姿勢等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 一、掃除巡視ノ配置ノ適否
 - 二、掃除人ノ數及其配置ノ適否
 - 三、塵芥焼却場汚物假置場ノ狀況
 - 四、公共溝渠公共便所ノ狀況
 - 五、其他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
 - 六、私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ關スル法令ノ行否
- 第十九 掃除監督ハ左ノ事項ヲ視察スヘシ
- 一、掃除巡視ノ配置ノ適否
 - 二、掃除人ノ數及其配置ノ適否
 - 三、塵芥焼却場汚物假置場ノ狀況
 - 四、公共溝渠 公共便所ノ狀況
 - 五、其他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
 - 六、私人ノ義務ニ屬スル場處ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ關スル法令ノ行否

- 第二十 掃除監督ハ公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十一 掃除監督ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十二 掃除監督ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第二十三 掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ掃除巡視ヲ指揮シテ其事務ニ従事スヘシ
- 第二十四 掃除監督ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官吏ノ協議アリタルトキハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ自ら臨檢スヘシ掃除監督長ノ命アリタルトキ亦同シ
- 第二十五 掃除監督ハ法令又ハ市參事會若ハ市長ノ訓令又ハ掃除監督長ノ指示ニ關シ任務ノ統一ヲ圖ルタメ隨時部下ノ掃除巡視ニ必要ナル訓授ヲ爲スヘシ
- 第二十六 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ受持區内ニ於ケル巡行線路ヲ定メ掃除監督長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタル時亦同シ
- 第二十七 掃除監督ハ掃除巡視ノ出勤簿及勤務日誌其他必要ナル簿冊ヲ整理スヘシ
- 第二十八 掃除監督ハ臨時必要アルトキハ掃除巡視ヲシテ他ノ掃除巡視ノ受持ニ屬
- 附錄 掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

スル事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得

第二十九 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ進退賞罰ヲ掃除監督長ニ具申スヘシ

第三十 掃除監督ハ掃除人ノ解雇ヲ要スト認ムルトキ又ハ人夫受負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ

第三十一 掃除監督ハ毎月三回左ノ事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ

一、使用シタル掃除人ノ延人員

二、搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量

三、焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量

四、公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場ノ築造修繕浚渫等ニ著手シ又ハ落成シタル箇所其狀況

五、掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數

六、塵除監視吏員ノ巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

七、掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數

八、掃除監視吏員警察官署ノ協議ニ依リ臨檢シタル數

九、掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府縣令ニ依リ告發シタルモノノ數

其他

掃除巡視ノ職務

第三十二 掃除巡視ハ掃除区内ノ受持區ヲ擔任シ又ハ塵芥焼却場汚物假置場ニ勤務スヘシ

第三十三 掃除巡視ハ常ニ受持区内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ

第三十四 掃除巡視ハ毎日掃除人其被服掃除用器具ヲ點檢シ勤務日誌ニ記載スヘシ

第三十五 掃除巡視ハ掃除人ノ作業等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ

第三十六 掃除巡視ハ必要ト認ムルトキハ掃除人ノ作業服裝掃除用器具等ニ關シ視察シタル事項ヲ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十七 掃除巡視ハ公共溝渠公共便所其他市ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ其狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但溝渠便所塵芥焼却場汚物假置場ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十八 掃除巡視ハ塵芥容器塵芥溜等ヲ檢査シ汚物停滞シタルトキハ掃除人ヲ指揮シテ搬出セシムヘシ其破損シタルトキハ家人ニ注意ヲ與ヘ取替又ハ修繕ヲ爲サシムヘシ

第三十九 掃除巡視ハ溝渠便所井戸流其他私人ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ家人ニ注意ヲ與ヘ又ハ時宜ニ依リ衛生組長ニ交渉シ其狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

附錄 掃除監視吏員ノ職務章程中ニ規定スヘキ條項

第四十 掃除巡視ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十一 掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ上司ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ従事スヘシ

第四十二 塵芥焼却場又ハ汚物假置場所屬ノ掃除巡視ハ毎日出入ノ汚物舟車數其見積重量又ハ容量ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

第四十三 掃除巡視ハ汚物掃除法第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以内ニ臨檢シ直ニ其實ヲ掃除監督ニ報告スヘシ掃除監督長又ハ掃除監督ノ命アリタルトキ亦同シ若シ期限内ニ臨檢シ難キ事由アルトキハ掃除監督ニ具申スヘシ

第四十四 掃除巡視ハ毎月一定ノ時刻ニ掃除事務所又ハ出張所ニ參集シ出勤簿ニ捺印シ諸般ノ報告等ヲ爲スヘシ

第四十五 掃除巡視ハ受持区内ノ戸數及塵芥容器塵芥溜ノ數ヲ調査ノ上記録シ常ニ之ヲ加除スヘシ

第四十六 掃除巡視ハ勤務中給與ノ手帳ヲ携ヘ大小ノ事故ヲ之ニ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第四十七 掃除巡視ハ前各項ニ掲クルモノ、外毎日勤務ノ要領及勤務中ノ事故ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

汚物掃除法施行ニ際シ注意ノ件

明治三十三年三月
衛甲第二四號

汚物掃除法實施ニ關シ主眼トスヘキ點ハ(一)施行規則第九條ニ規定セラレタル(イ)掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其汚物ノ處分ノ方法順序如何

(ロ)市ノ義務ニ屬スル場所就中公共溝渠及公共便所ノ掃除ニ關スル方法順序如何

(二)(イ)私人ハ法令ノ命スル所ニ依リ其地域内ノ掃除ヲ實行スルヤ (ロ)溝渠便所等ノ管理適當ナルヤヲ監視シ (ハ)市ノ掃除人夫若クハ市ノ請負人ニ屬スル掃除人夫ハ遲滞ナク各戸ヨリ汚物ヲ搬出スルヤ (ニ)公共溝渠公共便所等ノ掃除人ハ適當ニ掃除ヲ行フヤ否等ヲ監視セシムルタメ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ組織配置選任等如何ノ點ニ有之掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其處分ノ方法順序並ニ市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ニ關スル方法順序ハ施行規則第十一條ニ依リ市ニ於テ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘキ管ニ付其認可ヲ與フルニ際シテハ慎重ノ御調査ヲ要スヘキハ勿論市ニ於テ是等ノ方法順序ヲ定ムルニ際シテハ便宜必要ナル注意ヲ與ヘラル、カ如キ場合モ可有之而シテ(一)(イ)即チ各戸ヨリ汚物ノ運搬及處分ニ關シテハ市内ノ戸口稠密ナル地區ニ對シテハ施行規則第五條二項ニ依リ毎日一回塵芥ヲ搬出スルコトニ定メシメ其餘ハ土地住民ノ狀況ニ應シ相當ノ搬出回數ヲ一定セシメラレ度又掃除義務者ノ溝渠ヲ掃除シタル汚泥モ施行規則第五條ニ依リ市ニ於テ之ヲ運搬處分ス

ヘキ管ニ有之候處汚泥ノ運搬ニハ特別ノ容器ヲ要スル儀ニ付汚泥ノ搬出ニ關シテハ特ニ一定ノ期日ヲ定メ義務者ヲシテ當日迄ニ溝渠ヲ浚渫掃除セシムルカ如キモ亦一法ト存候

公共溝渠ハ一箇年内ニ二回以上普ク浚渫ヲ爲シ又疏通ヲ妨クヘキ塵芥等ハ不絶之ヲ掃除スル様方法順序ヲ定メラレ度候

又掃除搬出シタル汚物中塵芥ハ可成之ヲ燒却スル爲燒却場ヲ設ケシメ若シ直ニ燒却場ヲ設クルコト能ハサル事情アルトキハ今ヨリ燒却場ノ構造位置等ヲ調査セシメ遠カラス之ヲ設置セシムル様御措置相成度而シテ汚泥及燒却場ノ設置ナキ場合ニ於ケル塵芥ハ之ヲ市外一定ノ地ニ運搬一定ノ方法ニ依リ處置セシメラレ度候

次ニ汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ掃除監視吏員ヲ置カシムルハ貴官ノ職權ニ屬シ候處掃除ニ關スル方法順序ノ適當ニ施行セラル、ヤ否ヲ監視スルハ法ノ實效ヲ期スル爲最緊要ナル事項ニ有之而シテ掃除監視吏員ヲシテ私人ハ法令ノ命スル所ニ依リ其地域内ノ掃除ヲ實行スルヤ又私人ニ屬スル溝渠便所等ノ管理ハ適當ナルヤヲ監視セシムルハ國ノ行政事務ヲ市吏員ニ委任セルモノニ付此點ニ付テハ監視吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事スルモノニシテ其職責警察官ニ近似スルモノニ有之又市ノ掃除人夫等ハ遲滯ナク各戸ヨリ汚物ヲ搬出スルヤ公共溝渠公共便所等ノ掃除人ハ適當ニ掃除ヲ行フヤ否等ヲ監視セシムルハ市ノ自治事務ニ從事セシムルモノニシテ此點

ニ就テハ監視吏員ハ市參事會ノ命ヲ承ケ事務ニ從事スルモノニ有之候此ノ如ク掃除監視吏員ハ自治行政事務ニ從事スル外國ノ行政事務ニ從事シ人民ニ直接スルモノニ有之殊ニ施行規則第十條第四號ニ依リ私人ニ戒告スルカ如キ職權ヲモ行使スルモノニ付監視吏員ハ地方長官ニ於テ必要ノ技能アリ規律アル人物必要ノ員數ヲ市ニ置カシムルヲ得ルノ注意ニ基キ法第五條ノ施行ニ關シ省令第六號ヲ發布セラレタル次第ニ有之候而シテ掃除監督長ニハ專任者ヲ置カシメ常ニ市内ヲ巡視シ掃除監督以下ヲ監督セシムルノ要アレトモ市ノ小ニシテ少數ノ監視吏員アル場合ノ如キハ時宜ニ依リ助役等ヲ以テ之ニ充ツルモ可ナルヘク又掃除巡視ハ少クモ毎月數回普ク市内各戸ニ就キ掃除ノ實況ヲ監視セシメ得ル目的トシ其人員ヲ定メラレンコトヲ望ムト雖モ一時ニ多數ノ吏員ヲ置キ難キ事情アルトキハ將來漸次増員スルノ目的ヲ以テ宜ニ從ヒ其員數ヲ定メラレ度又掃除巡視ハ大略巡查ニ相當スルヲ目的トシ其俸給ヲ定メラレ度又掃除監督ノ定員及俸給ハ掃除巡視ノ監督上必要ニ應シ之ヲ定メラレ度候

終リニ汚物掃除法第二條第三條施行規則第五條第九條ノ事項ノ施行ニ關シテハ將來市ニ常雇掃除人夫ヲ置キ市ノ直轄事業トスルヲ望ムト雖モ市ニ於テ多數ノ人夫ヲ直轄使用シタル經驗ナキ場合等ニハ當分ノ内掃除人夫受負人ヲ定ムルカ如キモ亦可ナラント存候尤モ其人夫ノ指揮監督ハ市ノ監視吏員ヲシテ嚴重ニ之ヲ行ハシムヘキハ勿論ト存候

右ハ汚物掃除法施行ニ際シ法ノ精神ヲ明ニシ御參考ニ供シ度大臣ノ命ニ依リ此段及通牒候也

汚物掃除法施行法施行上ニ必要ナル諸費負擔ニ

關スル件 明治三十三年六月
衛甲第六一號

汚物掃除法第十一條ニ依リ同法ノ全部又ハ一部ヲ町村内ノ一部ニ準用スルトキハ其施行上必要ナル汚水溜溝渠便所等ノ費用ハ町村制第九十九條第二項ニ依リ其施行地一部ノ負擔タラシムルヲ得ヘク又汚物蒐集費監視吏員ノ俸給其他旅行ニ要スル一切ノ費用ニ關シテハ町村制第二百二十七條第七項ニ依リ掃除法準用區域ト其他トノ間ニ附加税ニ相當ノ等差ヲ設ケ不均一ノ賦課ヲ爲スカ如キ方法ヲ取ラハ略ホ負擔ノ權衡ヲ保チ得ヘシト存候間合ノ向モ有之候ニ付爲念此段及通牒候也

道路掃除取締方ノ件

明治五年十月
布告

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以相不濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路ノ制被相立候マテハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村へ公平ニ割渡左ノ條目ノ通掃除可爲致事

第一條

一 總テ掃除請持丁場等ハ風雨ノ障リ有無ニ拘ラス必三箇月中一度ツツ掃除可致事

第二條

一 風雨ノ後ハ必其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝へ導キ水溜ノ場所相減候様可致事

第三條

一 竝木根返リ風折雪折等ハ追テ其廳ヨリ所分有之ト雖不取敢通路妨ナキ權取片付置可申事

第四條

一 左右ニ溝渠無之道ハ可成丈ケ路ノ兩縁ヲ低下ニシ雨水ノ捌方宜敷様可致事

第五條

一 掃除丁場之杭往往等閑ニ致シ置候向モ有之右ハ必其請持丁場境ニ從是東西或ハ南北何百何十何丁何郡何村掃除丁場ト誌シ標杭相建事

第六條

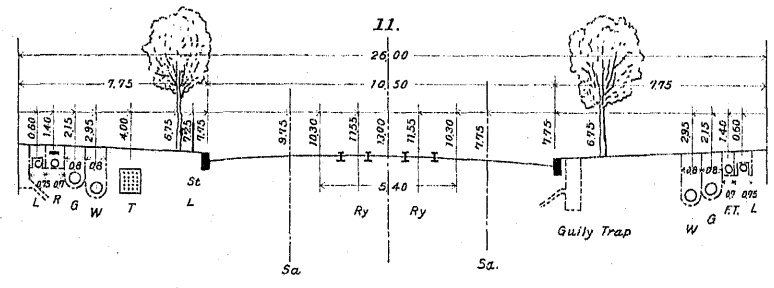
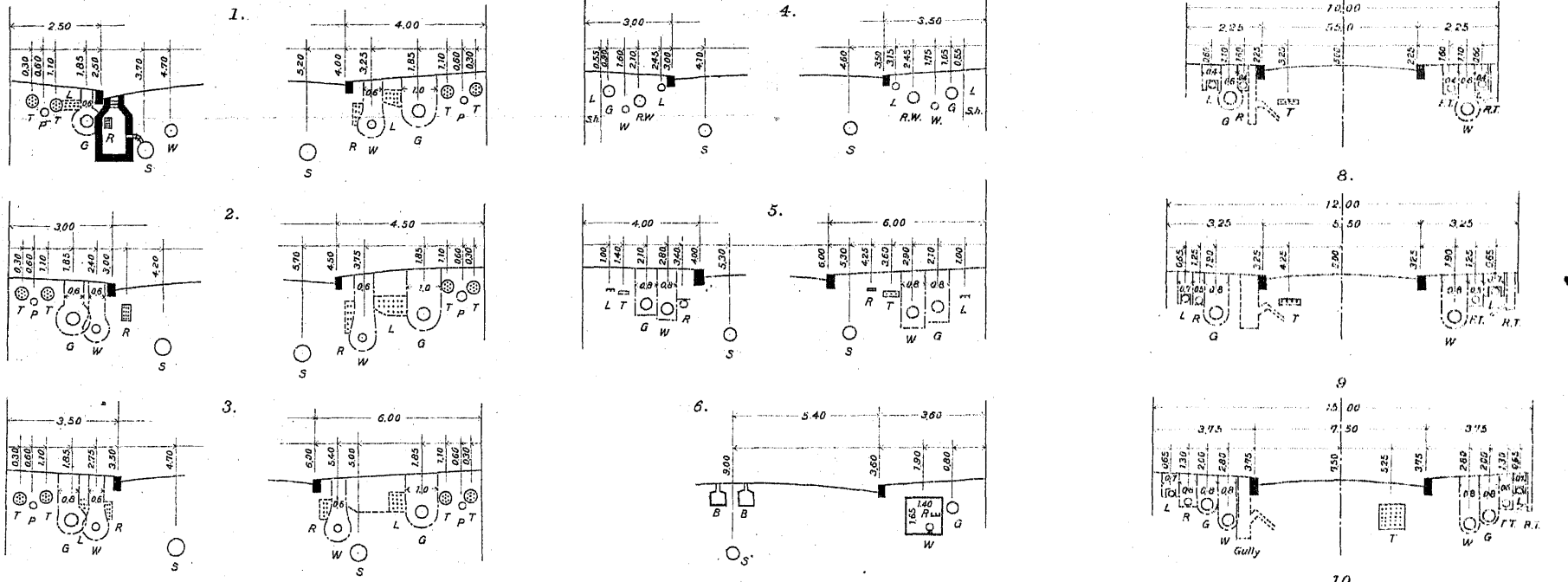
一 路舗往々田畑ニ切添候ヨリ竝木根サシテ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以テノ外ノ事ニ候以來決シテ右等ノ所業致ス間敷事
右ノ通堅可相守候若等閑ニ差置ニ於テハ掛リ官員巡回ノ節屹度可申付事

四 屎尿ニ就テ

附錄

汚物掃除法施行法施行上ニ必要ナル諸費負擔ニ關スル件 道路掃除取
締方ノ件 屎尿ニ就テ 二八九

尿管ハ當分ノ内原則トシテハ市ニ於テ之ヲ處分セス掃除義務者ノ任意ノ處分ニ任セタリ蓋シ我國ニ於テハ從來尿管ハ肥料ニ供セラレ相當ノ價格ヲ有スルカ故ニ自ラ之ヲ處分シ之レニ依リテ幾分ノ收入ヲ得ルノ慣習アルカ故ナリト雖モ地方長官カ必要ト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ市ヲシテ處分セシムルコトヲ得ベキノ規定ナリ目下我邦ニ於テ市カ尿管ノ處分ヲ爲スハ唯名古屋市ノミナリ抑モ尿管ノ處分ニ付私人ノ有價物タル尿管ヲ市カ自由ニ處分シ得ルヤ否ヤノ問題モ疑義ノ存スル所ナリ然レトモ汚物掃除法ヲ根據トシテ考フルトキニハ公衆衛生上必要ナルカ故ニ私人ノ所有權ヲ制限スルコトヲ得ヘキモノナレハ市ニ於テ處分スルモ敢テ差支ナキモノナリトスルヲ至當ナル見解トナスモノ、如シ



- 1-3, Berlin.
- 4, Hannover.
- 5, Breslau.
- 6, Brussel.
- 7-11, Köln.
- 12, Wiesbaden.

凡例

B	G	L	P	R	S	T	W	FT.	L.Sh.	R.K.
市街鐵道用階渠	瓦	電	氣	電	下	電	給	消	照	閘
	斯	燈	力	鐵	水	話	水	水	燈	門
管	管	線	線	線	管	管	管	通	檢	排
	線	線	線	線	線	線	線	知	查	水
								用	料	管
								電		檢
								線		料
R.T.	R.W.	Ry.	Sa.	Gully	St.l	Trap				
雨	河	市	下	街	街	瓦				
水	水	街	水	水	水	斯				
樹	供	鐵	中	柳	柳					
	給	道	心	柳	柳					
	管	線	線	柳	柳					

索
引

邦文索引

イ		灌溉法.....190
ライムホッフ槽.....181		含菌數.....197
ウ		改善(本邦便所ノ).....204
雨水.....50		可搬小槽.....206
雨水ノ遲滯.....68		街路掃除費.....220
雨水枳.....122		キ
雨水枳ノ掃除.....214		強雨公式.....51
エ		渠内ノ流速.....85
溢流口.....67		許容最小深.....86
溢流堰.....111		基礎及ヒ支保工.....104
エムシアール槽.....181		氣流公式.....127
オ		器械清掃法.....137
横切渠.....44		ク
汚泥及汚滓.....161		クナツフ氏公式.....94
汚泥.....175		空地雨水枳.....147
汚泥ノ含水量.....180		ケ
汚泥ノ腐敗.....181		下水渠ノ配置.....40
汚泥酸化促進法.....183		下水渠ノ位置.....90
汚泥ノ處分.....184		下水排出口.....118
カ		下水ノ處分.....158
家事用廢水.....47		下水ト獸類.....165
管内流速公式.....115		下水ト魚類.....166
管徑ヲ求ムル公式.....116		下水放流ニ就テ.....160
管材.....141		コ
管ノ分類.....142		混合式.....39
監視孔.....146		工場廢水.....50
河川汚化調査會.....163		勾配ニ就テ.....85
河水ト下水.....165		交叉.....89
河水ノ自淨.....169		混凝土及鐵筋混凝土下水渠.....100

交錯法.....101
 勾配.....141
 固形物.....160
 耕地トノ(下水ト)關係.....167
 効率(沈澄ノ).....176
 [コラチット]式.....185
 工費.....223

サ

最小流速.....85
 最大流速.....86
 [サイフォン]管.....118
 細菌.....162
 殺菌法.....201
 撒粉便器.....207

シ

人口ノ濃度.....48
 人口ノ増加.....49
 人類排泄物量.....50
 驟雨ノ範圍.....58
 實用勾配.....88
 [シエジー、クツテル]氏公式.....91
 [シエジー、ハザン]氏公式.....93
 人孔.....106
 臭氣止.....123
 砂利溜.....129
 自働流掃槽.....136
 室内本排水管.....144
 脂肪止.....147
 小便所.....149
 尿尿.....159
 處分法(下水ノ).....167
 除砂室.....171
 浸水板.....171
 脂肪分離.....183

人工砂濾法.....194
 小規模下水道工.....208
 塵芥ノ蒐集.....213
 住宅ノ塵芥.....214
 塵芥ノ處分法.....215
 塵芥焼却竈.....218
 熾滓.....218
 住宅塵芥運搬費.....221

ス

垂直式.....42
 水運式.....39

セ

扇狀式.....45
 石工下水渠.....99
 雪孔.....128
 清掃ノ必要.....132
 清掃法.....132
 前清澄法.....170
 清澄法.....172
 清淨法.....189
 接觸床.....198

ソ

挿接法.....101
 粗塵止.....171

タ

帶狀式.....45
 斷面變更.....89
 斷面ノ決定.....91
 斷面形.....95
 大便所.....151

チ

地下水ノ處分.....127

テ

停池.....66

鐵管渠.....102
 邸宅地排水ノ必要.....140
 邸宅排水ノ實例.....154
 [テケナー]式.....185
 滴散濾床.....199
 定置貯槽法.....203

ト

東京市ノ強雨.....53
 燈孔.....110
 [ドエル]式竈.....220

ネ

粘土燒管下水渠.....101

ハ

排氣孔.....125
 排雨管.....143
 排便管.....148
 廢水ト屎尿ノ混合.....162

ヒ

標準雨.....57
 [ボルクリ、チークレル]氏公式.....82

フ

分離式.....39
 [ブリツクス]氏公式.....83
 分離式下水渠.....131
 腐槽.....186
 [フンホルト]式竈.....220

ホ

保留法.....39
 放線式.....46
 防臭.....145

本邦便所ノ缺點.....204
 [ホールスファル]式竈.....219

マ

[マツク、マス]氏公式.....83

ミ

密塵止.....171

ヤ

藥品附加(沈澱).....173

ユ

有名ナル豪雨.....84

ヨ

用材.....98
 溶解物.....161

リ

流下量.....61
 流量ヲ求ムル公式.....82
 流速公式.....91
 流掃屏.....134
 流掃回数及水量.....137
 流掃槽.....152
 [リエンシユ、ウルル]式同轉塵集機.....171
 流速(沈澄池内ノ).....174
 離心乾燥機.....185

レ

煉瓦工下水渠.....99

ロ

[ローシアース、フィルールド]式流掃槽.....136

ワ

彎管.....113

歐 文 索 引

[特ニ(獨)ト記セザルハ英語ナリ]

A	
Activated sludge process.....	183
B	
Basin urinal.....	151
Biological filter.....	196
C	
Conservancy system.....	39
Combined system.....	39
Catch basin.....	122
Coarse screen.....	171
Clarification.....	172
Centrifugal machine.....	184
Colacit system.....	185
Contact bed.....	198
Clinker.....	218
D	
Düker(獨).....	113
Disinfektion(獨).....	168
Degener System(獨).....	185
E	
Emscher tank.....	181
F	
Flushing.....	40
Fan system.....	45
Flap gate.....	120
Flashing gate.....	134
Fladen(獨).....	161
Fine screen.....	171
G	
Geröllfang(獨).....	129
Grease trap.....	147
Grit chamber.....	171
H	
Hydraulic mean depth.....	85
I	
Intercepting sewer.....	44
Imhoff tank.....	181
K	
Kremer tank.....	183
Klärung(獨).....	168
L	
Lamphole.....	110
Latrine.....	152
Leaching cesspool.....	208
M	
Manhole.....	106

O	
Overflow weir.....	111
Outfall.....	118

P	
Perpendicular system.....	42
Purification.....	189

R	
Radial system.....	46
Rückhaltebecken(獨).....	66
Retardation.....	69
Retardation diagram.....	71
Reinigung(獨).....	168
Refuse destructor.....	218

S	
Separate system.....	46
Spiggot and Socket joint.....	101
Stoneware pipe.....	102
Siphon.....	118
Sludge.....	122,161

Schneeschacht(獨).....	128
Soil pipe.....	148
Stall urinal.....	149
Scum board.....	171
Septic tank.....	186
Slag.....	218

T	
Trap.....	123
Trough urinal.....	150
Travis tank.....	183
Trickling filter.....	199

V	
Vorklärung(獨).....	170

W	
Water carriage system.....	39
Washdown closet.....	153
Washout closet.....	153

Z	
Zone system.....	45

大正六年三月五日印刷
大正六年三月八日發行



著者

鶴見 一之

發行者

丸善株式會社

專務取締役 右代表者

印刷者

野村宗十郎

印刷所

株式會社 東京築地活版製造所

發行所

東京市日本橋區通三丁目
(郵便振替貯金口座東京第五番)
大阪市東區博勞町四丁目
(郵便振替貯金口座大阪第七番)
京都市三條通獄屋町西入
(郵便振替貯金口座大阪第一七三番)
福岡市博多上西町
(郵便振替貯金口座福岡第五〇〇番)
仙臺市國分町
(郵便振替貯金口座東京第七四番)

丸善株式會社
丸善大阪支店
丸善京都支店
丸善福岡支店
丸善仙臺支店

水道

正價金貳圓
郵稅內地金拾貳錢
轉輸金參拾錢



熊本高等工業學校教授
 工學士 小川 浦鍋 茂 雄氏
 工學士 三浦 鍋 茂 雄氏
 工學士 遠藤 金 市氏
 得業士 德 弘 春 美氏 共著

土木工學

菊判洋裝
 二册出版

圖數千二百四十種
 紙版七百八十餘種
 正價金貳圓五十錢
 郵稅金拾八錢

上巻目次 豫備數學 第一篇 解析幾何學大意：點・直線・圓錐曲線
 第一篇 靜力学 第一章 總論 第二章 力 第三章 合力 第四章 斜面上に於ける物體の平衡状態
 第二章 平面形質の中心 第七章 平面の慣性モーメント 第八章 外力の作用に及ぼす影響
 第三編 結核に於ける力
 第一編 第一章 緒論 第二章 水壓 第三章 浮力 第四章 運動が器中の水に及ぼす影響
 第五編 第一章 定流 第六章 射水及流水の作用
水力学 第一章 緒論 第二章 水壓 第三章 浮力 第四章 運動が器中の水に及ぼす影響
 第五編 第一章 定流 第六章 射水及流水の作用
第七編 第一章 管中の水流 第二章 管內の水流 第三章 管に關する一般理論 第四章 桁の撓度
中巻目次 第四章 材料力学 第一章 應力及變化 第二章 直線力に應用 第三章 桁に關する一般理論 第四章 桁の撓度
 第五章 固定桁及連續桁 第六章 合成應力 第七章 長柱 第八章 抵抗力に應用 第九章 彈簧論 第十一章 彈性的
 論及其他の應用 第五編 接合及連結 (Joints and Connections) 第一章 木材の接合 第二章 混凝土の原料 第三章 鉄筋
混凝土の性質 第七章 混凝土の性質 第七章 鐵筋混凝土 第八章 鐵筋混凝土の配合 第四章 混凝土の配合 第四章 混凝土の配合
混凝土の性質 第七章 鐵筋混凝土 第八章 鐵筋混凝土の配合 第四章 混凝土の配合 第四章 混凝土の配合
混凝土の性質 第七章 鐵筋混凝土 第八章 鐵筋混凝土の配合 第四章 混凝土の配合 第四章 混凝土の配合
 第五章 柱又は抗壓材 第六章 水槽 第七章 暗渠 第八章 鐵筋混凝土の撓度 第九章 彎曲應力及直線力 第十章 型

東北大學工學 工學士 鶴 見 一 之氏
 專門部教授 工學士 草間 偉 武氏 共著
 東京帝國大學 工學士 草間 偉 武氏 共著

土木施工法

菊判洋裝
 全一册

紙數四百三十餘頁
 圖版四百餘種
 正價金貳圓五十錢
 郵稅金拾八錢

第一章 石積工・石材施工工・工費 第二章 煉瓦工・煉瓦施工工・工費
 第三章 混凝土工・混凝土工・石灰・セメント・砂及び砂利・碎石・モルタル・モルタル及混凝土の調合比
 第四章 土工・鐵筋混凝土
 第五章 土工・鐵筋混凝土
 第六章 土工・鐵筋混凝土
 第七章 土工・鐵筋混凝土
 第八章 橋臺工・橋臺工
 第九章 橋脚工・橋脚工
 第十章 暗渠工・暗渠工
 第十一章 擁壁工・擁壁工
 第十二章 隧道工・隧道工
 第十三章 補遺・附録

北海道 工學博士 岡崎 文 吉氏 著

治水

菊判洋裝
 全一册

圖數六百二十餘頁
 紙版三百三十餘種
 正價金貳圓七拾錢
 郵稅金拾八錢

河川は國土の脈管なれば治水の法宜しきを得ると否とは國土の存亡に關す河川は又海事及外交上重大の關係を有するが故に其知識は
 専門家にのみ限局せらるべきものに非ざる也。岡崎博士が深甚なる土木工學上の造詣と多年實際上の経験とを擧げて大成したる
 本書は先哲未言の斯界の福音書にして洽く世の爲政者軍人及技術家が治水研究上の唯一無二の資料として之を江河に推獎すべき也
目次 第一章 緒論 第二章 河川の成因 第三章 流量 第四章 洪水 第五章 河川の荒廢保護 第六章 治水の目的 第七章 河川の管理 第八章
治水工事の實例 第九章 治水的理想 第十章 河川の平復狀態 第十一章 河川の定流 第十二章 河川の定義 第十三章 河川の分類 第十四章
 第三章 原始的河川に於ける天然狀態の保存 第四章 河川の平復狀態 第五章 河川の定流 第六章 治水工事の實例 第七章 河川の管理 第八章
 東京帝國 工學博士 廣 井 勇氏 著

訂再築港

菊判洋裝
 全二册

圖數八百三十五頁
 紙版二百五十種
 正價金壹圓八拾錢
 郵稅金拾八錢

日本の港湾は璞玉の如し磨かざれば夜光の名玉とならず、船舶の輻輳するは是れ富の流れ入る也築港の要並にあり技術及學者以外璞
 玉的港湾を控ゆる都市は本書に就て其要義を學べ、
目次 第一章 緒論 第二章 港湾の調査 第三章 海運 第四章 工事用材 第五章 工事用器械及工場 第六章 防波堤工事 第七章 護岸及防砂
 第八章 浚渫工事 第九章 築船岸 第十章 陸上設備 第十一章 修船塢 第十二章 河口改良工事 第十三章 大船運河 第十四章 航路標識 第十五章 港政 第十六章
 同 中山 勇 氏 同 野田 君 氏
 同 廣井 勇 氏 同 君島 八 郎 氏
 同 中山 三 郎 氏 同 草間 偉 武 氏
 同 服部 次 郎 氏 同 永山 彌 次 郎 氏
 共著

增補英和工學辭典

三五判洋裝
 全一册

紙數三百餘頁
 正價金壹圓貳拾錢
 郵稅金八錢

本書は去る四十一年第一版を公にしてより版を重ねること七回今や増補改訂第八版を刊行するに當り嚴正なる改訂を施し、更に新語
 約三千を増補したれば書中の術語の總數二萬を越へたり、且字體を改め縮刷して以て檢覽及攜帶に便ならしめたり工學研究家は須
 らく新裝せる本書を座右に備へて常用術語の標準的譯語を索めらるべき也。

東京帝國大學教授 工學博士 田中 不二氏 共著
東京帝國大學助教授 工學士 内丸最一郎氏

增補 機械設計及製圖

前編 第一章 製圖及び幾何畫法○製圖器具及び製圖法○幾何畫法○投影畫法○第二章 材料の強弱及び剛性と管の性質
及及び試驗成績○第四章 螺絲○螺絲、ホルト及びナット○第五章 球軸承○第六章 管及び管接手○調帶裝置○繩
帶裝置○針金繩裝置○第七章 齒輪裝置○第八章 齒輪裝置○第九章 瓦斯及石油機關の設計法○第九章 往復運動唧筒の設計法○
後編 第六章 蒸汽機の設計法○第七章 蒸汽機の設計法○第八章 瓦斯及石油機關の設計法○第九章 往復運動唧筒の設計法○
第十章 渦卷唧筒の設計法○第十一章 水車の設計法
東京帝國大學 工學博士 田中 不二氏 著
大學教授 工學博士 田中 不二氏 著

應用力學

第一編 材料及び構造強弱學 ○第一章 内力及至み ○第二章 梁 ○第三章 傾斜荷物を受くる梁 ○第四章 柱 ○第五章 管のへこ
み ○第六章 剪断と振れと軸 ○第七章 聯立内力 ○第八章 紙接手 ○問題集 索引
第二編 水力學及び水力機械 ○第一章 流體靜力學 ○第二章 水力學 ○第三章 孔よりの水の流れ ○第四章 切り抜き及び堰より
の水の流れ ○第五章 管内の水の流れ ○第六章 水路内の水の流れ ○第七章 羽根に於ける水の衝擊 ○第八章 ふき出し及筒口 ○第
九章 水力原動機 ○第十章 唧筒 ○問題集 索引
東京帝國大學 工學士 内丸最一郎氏 著
助教授 工學士 内丸最一郎氏 著

水力タービン

第一章 概論 ○第二章 落差、水量及び馬力 ○第三章 水車内に於ける水的作用 ○第四章 フランシス車 ○設計法 ○第五章 ヲフ
ランシス車設計の實例 ○第六章 羽根の畫法 ○第七章 ペルトン車 ○第八章 水車の特有の轉數 ○第九章 調速機の構造 ○第十
章 導羽根の開閉及びびすみ車 ○作用 ○第十一章 調速作用に基く廻轉速さの昇降 ○第十二章 水壓調整器 ○第十三章 導水管 ○第
十四章 水止め裝置及び水槽 ○第十五章 水車の運轉試驗 ○附録 水車の使用表及び各種水車の寫眞圖

工學博士 田邊朔郎氏 著

水力

菊判洋裝全一冊
正價 金壹圓六拾五錢
郵税 金拾貳錢

工學士 栗原忠三氏 著

水力事業論

菊判洋裝全一冊
正價 金壹圓六拾五錢
郵税 金拾貳錢

眞住 衡平氏 著

發電水力

菊判洋裝全一冊
正價 金壹圓貳拾錢
郵税 金拾貳錢

工學士 伊藤萬太郎氏 著

水力機械學

菊判洋裝全二冊
正價 金壹圓八拾錢
郵税 金拾貳錢

林學士 石丸文雄氏 著

土木應用力學

菊判洋裝全一冊
正價 金貳拾錢
郵税 金拾貳錢

本書は緒言、水力調査、河川流量と水力に要する水量との關係及貯水量の計算、堰堤、水の原取入のために河川に設くる堰、堤、水路に於ける流水、水路構造、管中流水、水管敷設、各種鐵管の厚さ、重量、其接續方法及木樋管、鐵筋混泥土管、鐵管注水、水路取入口及水門、壓力水管安全弁及水塔、水車場、水車水力馬力計算の十章を載せたり

第一章 水資源 ○第二章 水路 ○第三章 水力 ○第四章 堰堤 ○第五章 建造物 ○第六章 水車 ○第七章 動力輸送 ○第八章 電力 ○第九章 企業 ○第十章 雨量 ○第十一章 電氣 ○第十二章 電氣化學工業 ○第十三章 電氣 ○第十四章 電氣 ○第十五章 電氣 ○第十六章 電氣 ○第十七章 電氣 ○第十八章 電氣 ○第十九章 電氣 ○第二十章 電氣

第一章 總論 ○第二章 流體重學の一斑 ○第三章 水源工事 ○第四章 水路及水管に於ける損失 ○第五章 開放水路 ○第六章 暗塞水路 ○第七章 水塔 ○第八章 導水管及水槽 ○第九章 發電設備 ○第十章 企業的打算 ○第十一章 水量測定法

上巻 第一編 水力學 ○流孔の流す水 ○管中の流水 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第二編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第三編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第四編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第五編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第六編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第七編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第八編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第九編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置 ○第十編 水車 ○水圧 ○水車 ○新式水車 ○流量の測定 ○管裝置

一 總論 ○二 同平面上にある力の合成及分解 ○三 靜力率 ○四 示力圖 ○五 抗張力 ○六 抗壓力 ○七 抗彎力 ○八 抗撓力 ○九 抗剪力 ○十 抗張力 ○十一 抗壓力 ○十二 抗彎力 ○十三 抗撓力 ○十四 抗剪力 ○十五 抗張力 ○十六 抗壓力 ○十七 抗彎力 ○十八 抗撓力 ○十九 抗剪力 ○二十 抗張力 ○二十一 抗壓力 ○二十二 抗彎力 ○二十三 抗撓力 ○二十四 抗剪力 ○二十五 抗張力 ○二十六 抗壓力 ○二十七 抗彎力 ○二十八 抗撓力 ○二十九 抗剪力 ○三十 抗張力 ○三十一 抗壓力 ○三十二 抗彎力 ○三十三 抗撓力 ○三十四 抗剪力 ○三十五 抗張力 ○三十六 抗壓力 ○三十七 抗彎力 ○三十八 抗撓力 ○三十九 抗剪力 ○四十 抗張力 ○四十一 抗壓力 ○四十二 抗彎力 ○四十三 抗撓力 ○四十四 抗剪力 ○四十五 抗張力 ○四十六 抗壓力 ○四十七 抗彎力 ○四十八 抗撓力 ○四十九 抗剪力 ○五十 抗張力 ○五十一 抗壓力 ○五十二 抗彎力 ○五十三 抗撓力 ○五十四 抗剪力 ○五十五 抗張力 ○五十六 抗壓力 ○五十七 抗彎力 ○五十八 抗撓力 ○五十九 抗剪力 ○六十 抗張力 ○六十一 抗壓力 ○六十二 抗彎力 ○六十三 抗撓力 ○六十四 抗剪力 ○六十五 抗張力 ○六十六 抗壓力 ○六十七 抗彎力 ○六十八 抗撓力 ○六十九 抗剪力 ○七十 抗張力 ○七十一 抗壓力 ○七十二 抗彎力 ○七十三 抗撓力 ○七十四 抗剪力 ○七十五 抗張力 ○七十六 抗壓力 ○七十七 抗彎力 ○七十八 抗撓力 ○七十九 抗剪力 ○八十 抗張力 ○八十一 抗壓力 ○八十二 抗彎力 ○八十三 抗撓力 ○八十四 抗剪力 ○八十五 抗張力 ○八十六 抗壓力 ○八十七 抗彎力 ○八十八 抗撓力 ○八十九 抗剪力 ○九十 抗張力 ○九十一 抗壓力 ○九十二 抗彎力 ○九十三 抗撓力 ○九十四 抗剪力 ○九十五 抗張力 ○九十六 抗壓力 ○九十七 抗彎力 ○九十八 抗撓力 ○九十九 抗剪力 ○一百 抗張力

山口縣技師 原田碧氏編纂
實用 鐵筋コンクリート構法

袖珍總革裝全一冊 紙數五百餘頁
圖版三百六十餘種 寫真版二十餘枚
正價 金貳圓貳拾錢 郵稅金拾貳錢
二十世紀の鮮色彩を帯べる鐵筋混凝土が最近文明式の建築法として家屋に橋梁に將擁壁に其經濟的強固的美觀的特色を發揮しつゝあるは誰人も明かに認むるところ也、この鐵筋混凝土の應用方法を披瀝する本書が發刊後未だ幾許ならずして第一版を賣盡せるは偶然に非ず茲に第二版に於ては訂正を施し又新記事を添へ紙數に於て三十二頁圖版に於て三十六個を増すと與に印刷及び紙質更らに美を加へ益々本書の價値を増大ならしめたり

工學博士 日比忠彦氏著

鐵筋混凝土 其理論及上卷

四六二倍判洋裝一冊 紙數八百餘頁
圖版四百六十餘種 折込石版圖七枚
正價 金五圓五拾錢 郵稅金拾貳錢
あらゆる工業界を通じて噴々せらるる、鐵筋混凝土の原理及び構法を詳論せる歐米の文籍は其數四百を算す、然るに邦文に成れるカーソリタチの好著の全く無きは當業家從學者の常に以て遺憾とせし所なるが日比博士の新著は鐵筋混凝土の最新の理論並びに其實際上における應用の方式を述説して細密周到なれば斯界工業家諸氏は本書を精讀玩味して以て設計建造上の資料に供せらるべき也

工學博士 君島八郎氏著
島君 測 量 學

菊判洋裝全一冊 紙數三百三十餘頁 圖版二百五十餘種
正價 金壹圓六拾五錢 郵稅 金拾貳錢
本書は一般測量の方法と器械とに就て、理論と實地とを併用して二百五十有餘の插圖を用ひ、極めて平易に敘述し、始めて測量を學ぶ者の爲めに、つとめて習得を容易ならしむるものなれば、善く本書に通曉せば、單に一般測量を得するのみならず、特別測量を習ふに當りても亦た利益尠からず
目次 緒論〇一、鐵測量法〇二、測量器械附屬裝置〇三、羅盤測量〇四、測量用望遠鏡〇五、轉鏡測量〇六、水準測量〇七、平板測量八、六分儀〇九、面積〇十、體積〇十一、計算製圖用諸器械〇附録和英對譯術語

工學博士 君島八郎氏著

島君 大 測 量 學

菊判洋裝全二冊 紙數七百餘頁
圖版三百二十餘種 精巧銅版圖十枚
正價 上下各金貳圓參拾錢 郵稅各金拾八錢
測量に測量學を著して斯界の讀者に一道の光明を與へたる著者は今また大測量學を公にして特殊の測量を論述せり、即ち彼に於ては基礎となるべき測量の方法器械等を記載して簡易なる平地測量の一般を知らしむるを旨としたれども、此に在ては進入り各種の異なる目的を有する測量を詳論し、其特色を明かにせり、要するに彼は根幹の如く此は宛かも、枝葉に似たり幹枝相輔けて測量の能事なる苟くも測量の術に精通して何れり方面に處するも之くとして可ならざる無きを期せんと欲せば本書を讀むを要す

工學博士 大藤高彦氏校閱
工學士 平野正雄氏著

圖 式 力 學

菊判洋裝全一冊 正價金貳圓參拾錢 郵稅金拾貳錢
第一章 力〇第二章 單桁ニ作用スル固定荷重〇第三章 單桁ニ作用スル移動荷重〇第四章 結構〇第五章 屋構〇第六章 橋構〇第七章 結構ノ彈性的變形〇第八章 土ノ壓力〇第九章 疊石構造物〇第十章 疊石拱

工學士 關場茂樹氏編

標 準 橋 梁 仕 樣 書

菊判洋裝全一冊 正價金壹圓貳拾錢 郵稅金拾貳錢
目次：鐵道橋〇公道橋並に電氣鐵道橋〇材料〇作工製作〇監査及び塗工〇既設橋梁の検査〇附録 製作所に於ける鋼の検査
〇鑄鐵の検査〇鑄鋼の検査〇結構設計に關する一般の方則〇架設組立を容易ならしむる設計上の注意

工學博士 柴田哇作氏著

工 業 力 學

四六倍判全一冊 正價金貳圓七拾錢 郵稅金拾八錢
柴田博士の工業力學は斯學の權威にして獨り原理の精究に於て勝れるのみならず、専ら實際問題として抗張材、抗壓材各種の桁、軸、管、轉子、土の壓力、各種の水流、平衡線結構、堰、擁壁等に應用して最も其要を得たれば、斯學者皆之を案頭の伴侶としたりしが、今や前版に比し頁に於て七十餘、圖版に於て四十六個を増加し且大に其紙質を精良にしたれば體裁内容共に舊觀に非ず、況んや此書中の新定理、新公式は斯學の學生及び研究者を利益する事頗る多大也、簡單直截にしてしかも明快周到、庵丁牛を解くが如く鑿々として解説せらる

工學士 野津正忠氏著 (訂正増補再版)

理 論 應 用 計 算 尺 精 義

三五判洋裝全一冊 正價金壹圓六拾五錢 郵稅金拾貳錢
附數學公式及實用表
第一章 對數〇第二章 計算尺ノ原理〇第三章 計算尺ノ構造
其一〇第四章 計算尺ノ構造其二〇第五章 乘法〇第六章 除法
〇第七章 比及比例〇第八章 乘法及比除法ノ連續運算法
〇第九章 滑尺ヲ倒マニシテ計算スル法〇第十章 上部尺度〇
第十一章 對數尺度〇第十二章 自乘及比開方〇第十三章 四
尺共用實用運算極簡公式〇第十四章 圓ニ關スル諸計算〇第十
五章 三角函數ノ諸計算〇第十六章 種々ノ計算尺〇附録〇増
補

丸善株式會社發行工業書目

書名	著者	定價	裝法	郵費	備註
公式工程師必携	工學博士 田邊朔郎氏著	袖珍	革裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
森林土木工學 材料學	林學士 石丸文雄氏著	正價金貳圓貳拾錢	洋裝	一冊	郵稅金拾貳錢
森林土木工學 地形編	林學士 石丸文雄氏著	正價金貳圓貳拾錢	洋裝	一冊	郵稅金拾八錢
森林土木工學 林道橋梁及全書第二卷	林學士 石丸文雄氏著	正價金四圓五拾錢	洋裝	一冊	郵稅金拾八錢
森林土木工學 林道橋梁及全書第三卷	林學士 石丸文雄氏著	正價金四圓五拾錢	洋裝	一冊	郵稅金拾八錢
土木設計實用例	工學士 加藤成一氏著	袖珍	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
遠洋漁船	工學士 內丸最一郎氏著	正價金貳圓	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
蒸氣罐	工學士 內丸最一郎氏著	正價金壹圓七拾錢	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
蒸氣機關	工學士 內丸最一郎氏著	正價金貳圓	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
吹蒸氣タービン	工學士 內丸最一郎氏著	正價金貳圓八拾錢	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
改瓦斯及石油機關	工學士 內丸最一郎氏著	前編正價金貳圓貳拾錢 後編正價金貳圓四拾錢	洋裝	全二冊	郵稅各一冊
機學	工學博士 宮城音五郎氏著	菊判	洋裝	全三冊	郵稅各一冊
機械設計實用表	工學博士 安永義章氏校閱 浦上正二郎氏編	正價金壹圓九拾錢	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
機學	工學士 丹羽重光氏著	正價金貳圓五拾錢	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
鳳氏交流工學 交流理論	工學博士 鳳 秀太郎氏著	四六倍判	洋裝	全一冊	郵稅金拾貳錢
鳳氏交流工學 變壓器及理論階梯第一編	工學博士 鳳 秀太郎氏著	四六倍判	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
鳳氏交流工學 誘導電動機及理論階梯第二編	工學博士 鳳 秀太郎氏著	四六倍判	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
鳳氏交流工學 波動振動及理論階梯第三編	工學博士 荒川文六氏著	四六倍判	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
再荒電氣工學	工學博士 荒川文六氏著	正價金貳圓貳拾錢 上卷金貳圓貳拾錢 下卷金貳圓貳拾錢	洋裝	全三冊	郵稅各一冊
訂川電氣工學	海軍機關中佐 中條清三郎氏著	正價金貳圓貳拾錢 上卷金貳圓貳拾錢 下卷金貳圓貳拾錢	洋裝	全三冊	郵稅各一冊
電氣計算法	中條清三郎氏著	正價金貳圓貳拾錢	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢
電機設計法	工學博士 利根川守三郎氏著	正價金壹圓七拾錢	洋裝	全二冊	郵稅各拾貳錢
電話の理論と其應用	工學博士 利根川守三郎氏著	四六倍判	洋裝	全一冊	郵稅金拾八錢

下水道正誤表

頁	行	誤	正
4	6	貯七	貯へ
26	14	0.4×05	0.4×0.5
59	13	Früling	Frühling
134	12	第三十五圖	第三十六圖
290 ノ挿圖ハ第六十八圖ナリ			